

4000 名山記 2016年

平成 28 年 1/1(金)滋賀東 1 山、三重北部 1 山

「繖(きぬがさ)山」6:30~7:40(1:10) 観音正寺ゲート手前駐車場より往復。舗道経て観音正寺参道を歩く。寺脇より、登山道進み、急坂の階段登り稜線進むと繖山山頂。二等三角点、近江平野、山々の眺め良い。積雪 10cm。尾根より城跡巡りし途中、初日の出を拝み戻る。

「静ヶ岳」9:40~15:55(6:15) 宇賀溪有料駐車場より往復。駐車場管理人が登山届けの記載を雄弁に語るうとしたため、駐車料の取り方から始まる不満爆発し後味悪い出発。コースタイム的には遅い出発でキツイが、とにかく明るいうちに帰るため急ぐ。谷を避け金山尾根を一気に登る。遠足尾根と合流し、すぐ静ヶ岳の分岐。雪少し深く、靴跡のない雪道をコース案内に助けられ尾根伝いに進む。セキノコバ分岐より左へ登り静ヶ岳山頂。三角点、陽光あり、積雪 15cm。急ぐため、戻りは、途中より鹿の足跡の急斜面下り、本道ルートに合流。一旦下り、右の崩壊地を横目に登り返す。稜線近くで、福井から来た人が始めてで、藤原岳から来たとのことで驚きつつ挨拶。稜線より西へ進むと(銚子岳)山頂。晴天の青空、雪の白がすがすがしい。食事後急ぎ来たルート戻る。竜ガ岳分岐へかなり早く戻れて、すぐ竜ガ岳山頂へ。2 度目の竜ガ岳山頂で、先着の福井の人に挨拶。風強くすぐ下山。天気良く、軽快に下り、予定より 2 時間早く戻れた。

・1/2(土)奈良東 6 山 晴れ

「鎧岳」山頂 8:30「兜岳」山頂 9:25 7:30~11:00(3:30) 葛集落登山口より往復。民家の脇を抜け、神社。そこから作業道舗道進み終点より植林地進む。2分岐経て、進むと鎧岳山頂。三角点あり、集落からの絶壁見えないが、朝日と展望が心地良い。尾根伝いに戻り進み逢坂峠より急坂登り、尾根進むと兜岳山頂。広い山頂で、樹間より眺め良い。峠経て戻る。

「住塚山」山頂 12:35「国見山」山頂 13:05 11:05~14:30(3:25) 屏風岩公苑駐車場より往復。屏風岩経て、植林地・遊歩道進み、住塚山山頂。三角点あり、展望良い。尾根伝いに下り上り返すと国見山山頂。食事後 360 度の展望楽しみ戻る。

「古光山」山頂 15:30「後古光山」山頂 16:00 15:05~17:05(2:00) 大峠より往復。偵察つもりが、一気に往復。植林地、急坂を一気に進み、南峰。岩岩等のいくつかのピーク経て古光山山頂。三角点あり、俱留尊山等展望良い。ここから、90 度に思える下りが延々と続き、ロープあるも、慎重に木・根を掴み下る。久々のスリル。フカタワまで標高差 180m、距離 0.5km。上り返しは、標高差劣るが、距離 0.3km。左側のロープが沢山ある急坂を木・根・ロープ等頼りに一気に後古山山頂。360 度の展望を楽しみ、急ぎ足で来たルートに戻る。下りは慎重、登り返しは一気に登り、古光山・南峰経て大峠(隣がふきあげ斎場)に戻る。久しぶりに高度感あり、緊張する山歩きで途中で足が攣りそうになる。高所の上り下りの練習には、注意すれば良いかも。

3 連休、冬型の天気でも歩ける山目指し大遠征。

・1/9(土) 三重東 2 山「尼ヶ岳」晴れ 12:35~13:50(1:15) 林道の奥に駐車。登山口表示の橋を渡り、植林地進み、峠道と合流し整備された階段を登り、自然歩道が迂回する急坂の階段を登ると丘の広い尼ヶ岳山頂。三角点あり、俱留尊等の山々、伊勢湾、風力発電など眺め楽しむ。南の大洞は遠く、車で回ることとし、急ぎ来た道に戻る。雪なし(今回は全て)。

「大洞山」14:45~16:20(1:35) 大洞キャンプ場より往復。案内表示より坂を進むと林道ゲート。植林地の急坂進むと稜線。南へ進むと大洞山(雌岳)山頂。三角点・表示板あり、陽光心地よい。分岐に戻り、北へ。下り登り返すと最高点の(雄岳)山頂。縦走尾根の山頂。ススキ・風を楽しむ。分岐に戻り軽快に下山。

・1/10(日)晴れ 三重西 2 山、奈良東 2 山

「学能堂山」7:00～9:30(2:30)石名原宿跡に駐車し往復。昨日登山口下見し、空きスペースに留め出発。伊勢本街道を辿り、岳の洞分岐より、林道を進む。簡易水道施設に1台車あり。植林地の中の林道を急ぎ足で進むと先行の人に会い挨拶。林道終点より急坂の植林地をゆっくり進み、尾根に出て、稜線を進むと学能堂山山頂。広い丘の山頂。二等三角点、晴天で、山々の眺めよい。冬風強く、先行の人の到着後すぐ来た道に戻る。

「修験業山」10:00～14:10(4:10)若宮八幡宮駐車場より周回。神社参拝し、滝まで行くが登山口不明で已む無く、滝の西側の谷の西側に取り付き、植林地の獣道をトラバース気味に急坂登り、谷の尽きるところで本道に合流し安堵。尾根を進み、稜線分岐。西へ進み、高宮で拝み、さらに進むと修験業山山頂。樹林の中の縦走道の山頂で三角点あり。樹間より眺めあり、陽光、冬風心地よく、食事後高宮経て分岐に戻る。さらに栗の実に似た山を目指し稜線を東へ。岩尾根等経て(栗ノ木岳)山頂。眺め楽しみ、東へ急坂を慎重に下り若宮峠。後は谷・沢沿いの道を確認しながら、ゆっくり下り、神社に戻る。

「三郎岳」15:25～16:35(1:10)東側集落のピークより地元の人に石割峠の方向を教えてもらい、見当をつけて、林道進む。途中より山入り。自然歩道の一部で、寺跡より、植林地進み石仏。さらに鎖つきの急坂上ると三郎岳山頂。二等三角点。夕日、冬風心地よく、展望もよい。一息入れ、来た道を軽快に戻る。

「日張山」17:20～18:20(1:00)神社手前に駐車し参道進み、参拝。脇より山入り。暗くなり、鹿も鳴き、ライト付け道らしきを進むと日張山山頂。三角点あり、樹林の中の山頂。暗くすぐ下山。途中道間違え間違え地点まで戻り、何とか青蓮寺に辿りつき、戻る。

・1/11(月)奈良東2山晴れ「伊那佐山」5:35～7:35(2:00)集落の高いところの空きスペースに車止め出発。道不明で、林道らしきを上へと進む。青のテープあり、小藪の尾根を進み旧小屋。さらに先に進むと鹿の通る竹藪道。已む無く引き返すうち明るくなり、遠くに林道の白いガードレール見え、林道に出て終点まで進むと山への道あり。植林道を登ると伊那佐山山頂。神社あり参拝。三角点あり、南東からの眺めよい。来た道に戻り、途中獣道を辿り、何とか迷って来たルートに出て無事戻る。

「都介野岳」8:20～9:00(0:40)登山口に車止めれず、已む無く奥の池の空きスペースに駐車。林舗道を進み、急坂進み林道ピークより、山を戻り気味にトラバースしており、已む無く、先人の歩いた跡らしきを辿り、笹小藪の急斜面に取り付く。笹の薄いところを探しながら、ピークを目指すの間もなくピークにたどり着く。都介野岳山頂。樹林の中、三角点あり。神社に参拝し急坂の笹小藪を薄いところ選び慎重に下り、林道に出て戻る。

大遠征のため、今回はここまで。今回でどうにか2200山目を通過したが、先はかなり長そう。

2/12(金)休暇を取り遠征。

・2/11(木)晴れ三重東2山「迷岳」7:30～10:15(2:45)R422より林道に入り登山口より往復。林道進み、登山口より作業道を淡々と進み、途中から登山道となり、すぐ稜線。冷たい風の中尾根を進み、1P(口迷岳:標識あり眺め良い)。尾根を進み急斜面の雪等慎重に登り、迷岳山頂。二等三角点、晴天で展望楽しむ。本道ルートのテープ等確認し下山。下りは風なく、暖かな小春日和を楽しみつつ戻る。幸先良いと思いきや車で林道の落石踏み付け、スタットレスタイヤがバースト。松坂市まで行き、何とかスタットレスタイヤ2本を調達し交換。業者に感謝。ただ、金と時間を大損。

「古ヶ丸山」15:05～18:50(3:45)からすき谷公園より往復。時間ロスで、あせり急ぐも急坂で速度上がらず、尾根に出て(柁山:三角点)(清治山)を進み、岩岩の急坂を経て古ヶ丸山山頂。三角点あり、尾根の山頂で、静か。夕日・展望楽しみ急ぎ足で下山。難所と見た岩岩の急坂は明るいうちに進み、清治山よりライト付けゆっくり下山。次の下見は臆病でできず、移動。

・2/12(金)曇り奈良東3山「薊岳」8:15～12:00(3:45)バス停大又より林道進んだチェーンゲート口より往

復。杉植林の林道を進み、大鏡池の表示を辿り登ると水のない大きなくぼ地に神社あり。風が獣のように響き、すぐ先へ。1P(木屋ノ尾鞍)経て稜線進むが、春の大嵐で風強い。やせ尾根を慎重に進み、薊雌岳経て薊岳山頂。やせ尾根の山頂。風強く、視界今一つ。積雪5cm。天候良くなく、先へ進むのを諦め、来た道戻る。大鏡池の脇に(大鏡山:三角点)確認。下ると天候は晴れ。

・「白屋岳」13:00~14:15(1:15)足ノ郷越峠口より往復。林道進み、峰越え、武木林道に出て、林道を進み、登山口より、尾根経てすぐ白屋岳山頂。二等三角点、南・東の展望あり。標識多し。来たルートをショートカットし下山。

・「音羽山」15:25~18:40(3:15)針道口林道ゲートより往復。林舗道の坂上り、終点より少し上ると大峠。昔の街道道で祠あり。少し上ると四等三角点・反射板。後は稜線を進む。下り上り返すと(熊ヶ岳)山頂。さらに下り上り返すと(経ヶ塚山:石碑あり)。さらに進むと音羽山山頂。三角点あり、ヒノキ植林の平らな山頂。急ぎ戻る。経ヶ塚までは何とか歩けたが、後は、急激にバテる。熊ヶ岳で今日初めて食事をゆっくり食べて、何とか復活。反射板でライトつけ、林舗道に戻りゆっくり下山。

・2/13(土)晴れのち曇り奈良中部6山。天候悪化までと車での身近な山歩き。

「巻向山」山頂 6:30「三輪山」同 7:45「白山」同 8:25 6:10~8:35(2:25)奥不動寺より周回。ライトつけ、林道ゲートより林舗道進み、標識より山入り。すぐ巻向山山頂。三角点あり、樹林の中の山頂。明るくなる。ショートカットしようとさまよい、もとの巻向入り口に戻る。林道下り、途中よりアンテナ経て、ダンノタイヤに下る。後は淡々と彷徨い歩き、三輪山山頂。三角点あり、参拝し奥不動寺へ戻る。朝氣付かなかった巻向山の隣の白山標識より入り、白い岩を経て、樹林の中の、白山山頂。すぐ奥不動寺に戻り、参拝してあとにする。

・大和三山を車で巡る。

・「香具山」9:15~9:35(0:20)観光駐車場より往復。山頂展望良く、神社に参拝。

・「畝傍山」10:05~10:40(0:35)西側安寧天皇稜口より往復。ブロックの上の旧道進み、本道に出て、淡々と進み、畝傍山山頂。晴天、神社後あり、展望良い。年配者等人多くすぐ下山。

・「耳成山」11:35~11:50(0:15)車で方向音痴となり、移動に時間要す。百度石口より往復。天候悪化し雨降りそうで、急ぎ足で上り山頂。三角点確認、展望はなく、すぐ下山。

・昼に雨降り出し今回の遠征はここまで。

2/26(金)休みを取り遠征。

・2/26 三重西2山晴れ「仙千代ヶ峰」8:10~11:30(3:20)ダムたもとの倉元橋より往復。林道開設工事中の登山口(木の表示あり)より植林地をシダを見ながら、高度上げて尾根。東のガレを見ながら急坂登ると平坦な稜線。奥まで進むと仙千代ヶ峰山頂。二等三角点、晴れ、日差し心地よい。冬風。来たルート確認しながら戻る。テープ等目印ないと迷いそうな山。

「桧塚」13:25~16:45(3:20)千秋林道ゲートより往復。登山口不明だが、とりあえず林道を登ってゆき、橋を渡り間もなく、桧塚奥峰登山口あり、安堵。植林地を登り、途中より堅雪。テープ等案内あり、整備された道で作業小屋経て、植林地過ぎると草原で冬風の強風地帯。途中雨具の上を着て、少し落ち着くが、強風は同じ。稜線に出て、左へ進むと桧塚山頂。三角点、赤塗り木に黒字の標識あり。強風のため、一息入れすぐ、分岐戻り、反対側へ進むと(桧塚奥峰)山頂。山々の展望良い。強風のため、すぐ分岐に戻り、強風の尾根を下り来たルート戻る。

・2/27(土)奈良東8山 午後の天候不安のため、午前中メインであとは、ドライブ登山。

「戒場山」山頂 6:55「額井岳」同 7:45 6:15~8:25(2:10)山部赤人墓近くより周回。舗道を戒長寺へと歩き、山入り。植林地を淡々と進み、戒場山山頂。三角点あり、桧植林の中。オレンジの朝日、冬風。尾根の

急坂下り、上り返し、一山越えて急坂登ると額井岳山頂。三角点、祠・休憩所あり。平坦な山頂。ここから富士山が見えたとの新聞記事あり。急坂下りショートカットして戻る。

・「香酔山」山頂 9:55「貝ヶ平山」同 10:15 吐山スズラン群落近くより往復。スズラン群落経て、作業道進み、林道終点に合流。作業道進み尾根より左へ。四等三角点・鉄塔あるが標識なし。戻るも尾根は笹に覆われ、やむなく峠側へ下り獣道経て、結局先ほどの分岐のすぐ上の尾根に出る。笹に覆われた道らしきを進むと紫テープ出会い安堵。笹書き分け急坂を上ると香酔山山頂。樹林の中の山頂。陽光暖かい。尾根を下り、登り返すと本道に合流。尾根を進むと貝ヶ平山山頂。二等三角点、樹林の中の山頂。来たルート確認しつつ紫テープ辿ると、登山口は林道終点。作業道に惑わされたことに後で気づく。後は淡々と来たルートに戻る。

・「茶臼山」13:15～13:25(0:10) 舗道終点よりすぐの山頂。二等三角点、展望あり、電波塔もあり。

・「神野山」14:10～14:50(0:40) フォレストパークより鍋倉溪・天狗岩経て神野山山頂。一等三角点、展望台より山々の眺め良い。公園・鍋倉溪の景観を楽しむ。

・「一体山」15:40～16:15(0:35) 第3水源に駐車し、荒れた林道を茶畑眺めつつ進むと伐採現場。別ルートの整備された道と合流し奥に進むと一体山山頂。平坦な山頂で、植林の中に二等三角点・祠・電波塔あり。近くで防災設備システム工事中。天気怪しくすぐ戻る。

・「高峰山」17:45～18:25(0:40) 林道終点のNTT基地より急ぎ進むも道不明で引き返す道が違うが、山見え、小藪尾根登り高峰山山頂。二等三角点、電波基地脇、薄暮。ライト付け道を確認しながら辿り、迷い地点確認し無事戻る。天候不明のため、今回はここまで。

「伝説のハイカー編」

・3/12(土) 石川中部2山。「中三方岳」山頂 11:25「三輪山」同 15:20、晴れ 7:20～18:50(11:30) 登山道ないヤブ山を残雪期歩き。前回は入れなかった千丈温泉より上の林道を雪解けで少し入り駐車し大周回。雪が少し解けた林道を進み、口三方岳登山口を過ぎ、林道分岐を直進。残雪多い林道は、真ん中歩くと冬型の天気とは言え潜る。川沿いの解けた隅など工夫しながら歩くも、潜りつつ進む。目指す滝谷の先の尾根見え、遠めで取り付き口探しつつ、滝谷橋。先の林道は、残雪で埋まり、下の沢までの急斜面の崖と繋がり、トラバースは断念。湧き水で喉を潤し、崩壊現場作業道らしきを谷沿いに左岸を進み、目指す尾根に向かう。急斜面の残雪・瓦礫帯をゆっくり慎重に足場を確認しつつ三点確保で進む。最後は急斜面の残雪を慎重にトラバースし尾根に出て少し安堵。残雪を拾いつつ、獣道らしき、小藪を進む。大きな岩は、登り口を探しつつ、避けられない藪は、樹木の下をすり抜けつつ、高度を上げる。別尾根と合流し1P。その先がやせ尾根。両側急斜面の残雪の上を、慎重に進む。樹木が中央に立ちはだかる痩せ尾根は、樹木の中に飛び込み潜り抜け稜線に出る。頂上直下まで進み、一休み。急斜面の左側は、雪面のみで、下はかなり続く。右側の樹木帯寄りの尾根を進む。下部はアイスバーン状態で、ピン付長靴では歯が立たなく、慎重に樹木活用し掴まり、中を潜り抜けなどして上へ。上部は、日が当たり、雪も緩み、歩き易くなり、遂に中三方岳山頂。樹木は雪の下の山頂。口三方岳、奥三方(雲に上部隠れるも)等眺め良い。一休みし取りあえず、口三方まで、稜線を辿る。最初は、難なく歩けたが、中三方から見えない鞍部は少し藪を覗かせた細尾根。特に南側が絶壁の細尾根は、北側も残雪の急斜面で一歩一歩慎重に確認しながら下り越えて一安心。だが、その後も以外に距離とアップダウンがあり、体力を消耗。残雪急斜面は軟雪に潜りつつも、着実に一歩一歩確認して上る。口三方手前ピークまで来て大安堵。後は、歩き易い稜線進み 2 度目の口三方岳山頂。一息入れ、取りあえず行けるところまでと北側の稜線を下る。山のピーク等で、先への稜線を地図で確認しつつ、下ってゆく。体力は気にせず、黙々と位置確認し進む。HPで先人の憂慮した細尾根は、急な下りの細尾根。上下雨具付け一息入れ雪のない細尾根藪を五感を最大に働かせ藪を掻き分け少し下

ると、細い絶壁を見下ろす小道あり。先人が歩かれてる様子(獣道?)。慎重に藪の木に掴まり、払いつつ、下りきり安堵。後はなだらかな稜線を1P越え上り返すとアプローチが長い念願の三輪山山頂。ブナの木に地元山岳会の標識を2m上に見つけて、感謝と共に思わず、万歳。一息入れ、山々の眺め、遙か遠くに望める金沢市街と日本海に感激。戻りは、稜線の登り返し。雪面の足跡辿り、淡々と進む。この稜線は、周りはブナと残雪ばかり。問題の細尾根は、気を引き締め、枝に掴まり、遮る枝を払いつつ、慎重に登る。距離は短い、無事通過し一安心。さらに残雪の急斜面を一步一步、確認して登り、安全地帯へ。後は、足跡頼りに、稜線を黙々と登り、口三方岳(17:20)。一息入れ、先週より1時間遅れで下山開始。先週の足跡なく、登山跡らしい雪面を辿り、周りを確認しながら一気に早足で下る。途中テープ・木の赤ペンキ確認しつつ、下ると岩屋敷中間点(17:55)で日没。空の明るさと、一部顔を出した夏道に助けられつつ、軟雪にかなり潜りながらも、急ぎ足で駆け下る。旧伐採小屋跡経て、夏道の雪面は早足。平坦地は、軟雪で潜る潜るで嫌になるが、前へ前へ進む。その先の植林地経てあとは、軽快に夏道を下り、急斜面は慎重に下って口三方岳登山口。三日月・星空の明るさに助けられ、先週より10分遅れで駐車地に無事戻る。その後車で移動中、目が痒くて堪らず、温泉で流すもまだ痒い。典型的な花粉症。体力消耗もあり、今回はここまで。

3/21(月)大阪北1山「阿武山」8:25~9:45(1:20)晴れ 茨木市駅より阪急バス。バス停 安威より往復。階段登り、整備された武士自然歩道歩き。鳥居・林道等の尾根進み、間もなく阿武山山頂。三角点・憩いのベンチ等あるを平らな山頂。東側は展望良い。下りに地元の愛好者に合い挨拶。馬酔木の白い花を楽しみ、古墳見学して戻って、やまゆき会総会に参加。

・3/26(土)、27(日)石川南2山

3/26 晴れ「冬瓜山」8:25~16:05(7:40)ブナオ山観察舎下のR360ゲートより往復。ゲートより国道を歩いて、中宮ビジターセンター。裏の蛇谷自然公園、散策のトラバース道進み野猿広場。一息入れ、渡渉して急坂を慎重に登る。筈へ続く藪ルートだが、一般登山道のように踏まれている。急坂が続く尾根に出ると先の尾根筋が見え、残雪あり、歩き易そう。歩き易い残雪、尾根道を選びながら、高度を上げてゆく。幸いやせ尾根は少なく、淡々と登る。稜線に出て、ブナ林・残雪を楽しみながら歩く。頂上直下は、急斜面で3点確保で、木等に捕まりながら慎重に登り、3ピークある残雪のやせ尾根の冬瓜山山頂(12:50)。向かいから若者が出現し挨拶。筈からの日帰りの下りとのことで驚く。飄々と歩いており、挨拶しすぐ下って行った。ヤセ尾根の3ピークを何とか踏む。筈、大笠、白山連峰等の眺め良い。下りは、頂上からの急坂を慎重に下り、あとは、残雪歩きを楽しむ。途中、アイゼンを脱ぐ若者を抜いて一気に下る。ブナオへのルートも考えたが、激急斜面の下りはルート不明で、困難が予想されパス。残雪も、下りは緩み、潜ることは少しあったが、軽快に慎重に来たルートに戻り、ビジターセンター。冷たい風の中を国道歩いてゲートに戻る。

・3/27 「三村山」5:50~11:20(5:30)晴れ 小藪の山で、旧瀬名スキー場駐車場より、スキー場跡の残雪利用し往復。萱等のゲレンデ跡の急坂登り、林間コース。突き当たりを残雪のあるスキーコース辿らず、先人のつけた道らしきブナ林の急坂をゆっくり上る。尾根に出て、またスキー場に合流。跡はスキー場を淡々と進む。雪は堅雪で歩き易い。先人のワカンの跡を辿ってコースを登ってゆく。急坂の雪面につぼ足の跡を残しつつ、登り切るとゴンドラ山頂駅。さらにコースを辿り、リフト終点、さらに登り1P。ここで、先人のワカンは引き返したことを確認。後は、夏道の登山道を下り、残雪拾いして鞍部の林道に出会う。さてここからが問題。眼前に急坂の一山あり、ここを通過しないと先へ行けない。雪は堅雪。急斜面の残雪帯の登りは困難だ。とりあえず尾根に取り付き、尾根の樹林帯の境界を足場を確保し、慎重に木に掴まるなどして、ゆっくり高度を上げてゆく。何とか樹林帯が続く、足場を確保しつつ、残雪の緩やかな斜面に出るとすぐ2Pとなり安堵。尾根伝いに残雪拾いし鞍部を経て迂回路の尾根回り。途中残雪から少し顔を出した階段あり、夏道が整備されているのか?。淡々と尾根伝いに進み三村山山頂(9:00)。筈、大笠、白山の一角、日本海、

晴天の青空に、今日のバースデー登山と満足感が滲み出る。久しぶりにゆっくりと一息入れ、来たルート戻る。迂回尾根を鞍部まで下り、残雪拾いして上り返して2P。さてここからは気を引き締めて、来たルートの樹林帯境界を確認しながら下る。途中より、残雪の急斜面ながら、雪が少し柔らかくなり、いつものピン付長靴で踵落として、足場を確認しながら、楽しみつつ、一気に鞍部の林道出合いに駆け下る。振り返ると、山腹を斜めに夏道らしきあり。ただ雪に埋もれている。上り返す途中、別人の足跡あり、振り返るとやはり、先程確認した夏道らしき残雪ルートをトラバースで進んでゆく人を確認。地元の方と思われる。後は1Pに登り返し、リフト終点・ゴンドラ山頂駅と来たルート辿り、少し尾根道歩きでショートカットしつつ、少し軟くなった残雪は踏まれたワカンの跡を辿り、軽快に一気に下り、駐車場。天気が良く、体力の余力も申し分ないが、今回はここまで

4/2(土)晴れ岐阜北1山「御前岳」6:45~16:05(9:20)道のない藪山で、旧白弓スキー場より往復。同時に到着した地元岐阜の男5人パーティーに遅れて出発。スキー場のカヤ・ガレの坂をゆっくり進み、上で植林地に入る。後ろから1人来る。先行の5人に追いつき挨拶。同じ御前岳を目指す。先人の雪跡らしきを追い、軟い残雪の急斜面をゆっくり進み、尾根。ガレの急坂を木等に掴まり、境界標識頼りに力技で進む。また別の5人パーティー(男2人、女3人)に会い挨拶し先行する。今日は賑やかな山か？小藪の境界道らしきをゆっくり登り、軟な残雪歩き。何とかごまかし進むが、遂にワカンを出して歩くと少し潜るが、歩き易い。尾根を進み平坦な広い尾根で大きな勘違いをして、早めに方向転換。進むが下りになり、おかしいと地図で遠くの尾根筋を確認すると目指す山が遥か遠くに見え、本道尾根に戻る。30分以上の時間・体力ロス。少し進むと追い抜いた男女5人パーティーに再会。歩きはなれていない様子。先行し、尾根をアップダウンし進む。目指す山は谷・沢を一つ越える必要あり、目指す尾根筋確認。先人の跡らしきを追い一気に谷に下る。軟雪だか、ワカンに助けられ、淡々と下る。沢は、残雪の残りあり、慎重に渡り、軟雪に潜りながら急斜面に取り付く。急坂をゆっくり登り、少し堅雪でもそのままワカンで進む。トウヒ帯抜けると目指す山のピークが見え、何とか来れたと安堵の気持ち。幾つかのピークあり、取りあえず、一番左のピーク目指す。堅雪で歩き易い。左から周り込むと木に山の標識あり。ピークは、1等三角点が見せる御前岳山頂(12:00)。雪が少ないのか、この時期に三角点それも1等に会えて大満足。白山山系、猿ヶ馬場等山々の展望楽しみゆっくり昼食。晴れの穏やかな天気。下りも来たルート戻る。最初風強かったが、トウヒ帯抜けると穏やかに。今日の山頂は1人だけかと思いつつ下ると男性5人のパーティーが登ってくる。挨拶し山話。そのリーダーが4千山やっていると奇遇を感じた。踏み固められた残雪は、ワカンなしでも歩ける。一気に谷に下り、沢を慎重に渡り、急坂の登り返し。後は、残雪の後を淡々と軽快に下ってゆく。残雪が切れたところで、道不明となり、下るもおかしい。尾根を間違えた模様で、隣の尾根に慎重にトラバース。道らしきと境界標確認。元のルートに戻れて、後は一気に下ってゆく。こんなに急斜面のガレだったかなと驚きつつも慎重に下り、植林地を経て、スキー場。後はゆっくりと戻る。

・4/3(日)富山西1山 曇り「高落場山」6:15~11:10(4:55)目指す山の麓は、小雨で移動。ほかの2山も冬季通行止め、崩壊通行止めであきらめ4つ目。取り合えずと五箇山トンネル西出口の林業道らしきより登山道を目指す。作業道はすぐ見分けがつかなくなり、杉植林地のやや急な斜面の小藪の薄いところを選び登ってゆく。植林地尾根に出て進むと境界標識2色あり。後は山の方向に道を探す。残雪拾いつつ、尾根進むも、茨に苦戦。尾根を進み、展望開け、尾根の杉の木より、藪の薄いところを探して谷に下ってゆく。沢を1つ越え下ると何とか山道に出会う。想定よりかなりの藪漕ぎだったが一安心。杉を目印に石の道を淡々と登ってゆくと、唐木峠。後は植林地道経て残雪道現われる。ブナ林・残雪を楽しみ、雪に潜りつつも高度を上げてゆく。三差路経て進むと高落場山山頂。金沢・砺波平野、日本海、雪の山々の眺め楽しむ。山頂標識の上部のみ顔を出し、積雪2mか。下に雨具を付け、残雪下り楽しむ。途中地元の人に挨拶。峠

経て雪解け水でのどを潤し、目安の杉の木より再び藪入り。藪の薄いところ探し、ゆっくり、藪を掻き分け登る。尾根に出て、尾根筋を椿等掻き分け、残雪拾いし進む。2色の境界標に戻る。後は、淡々と小藪掻き分け、出発点に無事戻る。小雨パラツキ、今回はここまで。昨日も今日も花粉がキツイ。

4/9(土)10(日)福井東3山(藪山2山)

・4/9 晴れ 2山「徳平山」10:20~13:20(3:00)徳平林道途中より往復。倒木手前に駐車し林道歩き。尾根・沢・地図を見比べ取り付き口を探し登る。林道が沢より離れるところにテープあり、そこから渡渉し道らしきが沢沿いにあるが、先不明につき、目の前の急坂に取り付く。沢筋の水のないガレバを慎重に登り、途中より急斜面を獣道らしきを辿りゆっくり高度を上げて行く。藪の薄い所を進み尾根。下りの目印布を2つつけ、尾根を辿る。獣道らしきと歩き易い所を探し1P。テープあり、地図で位置確認。尾根が回りこむ先が目指す山。尾根を下り登り返して進む。途中より藪らしくなり、藪を掻き分け進む。程なく少し小高いピークの徳平山山頂。二等三角点。地元の方の表示板に感謝。樹間より白山連峰の眺めあり。残雪なし。下りは来たルート歩いていると思いきや、別尾根進み、トラバースし元の尾根に戻り、来たルートを確認しつつ下る。尾根最終で、目印布を回収し、一番の急坂を慎重に下る。渡渉し林道に戻り、穏やかな天候・沢音を楽しみながら戻る。駐車地で、降りてきた地元の山菜取りの人に挨拶。今年は雪が少ない。この辺の山に登る人を見かけたのは初めてとのこと。

・「鷲鞍岳」14:00~16:00(2:00)九頭竜ダムルートを往復。ダム道を渡り遊歩道歩き。つづら折れの道を経て、階段のある道をブナ林を楽しみ、落ち葉を踏みしめ辿ると鷲鞍岳山頂。三角点あり、登山口は3ルートで平坦な山頂。残雪なし。樹間より山々の眺めあり。来たルートを軽快に戻る。あとは、道の駅でくつろぎ、和泉スキー場手前の林道終点まで翌日の下見。沢にテープあるも、山容掴めず戻る。

・4/10「木無山」5:15~12:35(7:20)和泉スキー場手前の林道口より周回。明るくなり、林道出発。残雪期と同じすぐの橋2つを渡った先より左岸を沢沿いに進み、尾根沿いに移り、植林地と広葉樹林の境界の藪の薄い所の獣道を辿り高度を上げて行く。尾根は、灌木藪酷く、境界林地に戻る等して高度上げてゆき、残雪帯出て少し安堵。残雪は軟く、潜るが藪よりはまし。残雪を求めて、予定した尾根より離れてゆく。途中稜線と思しきを目指して、残雪を離れ、急坂の獣道を笹に掴まり抜けると再び残雪帯。稜線はさらに先。急坂を木、笹に掴まり登るとようやく稜線尾根。ピンクテープあり、残雪もあり、歩き易いと期待したが、遙か先の山頂まで尾根は、残雪なし。尾根を笹藪・灌木藪を掻き分け進む。後少しと思うが、中々藪に阻まれ、よれよれ歩き。残雪等求めるが、ほとんどない状態。ピンクテープが頻繁にあり、藪尾根歩きを助けてもらい感謝。遠くからは、なだらかな歩きやすい尾根と見えたが、実態は、笹・灌木の藪尾根。それでも何とか少しずつ進み、頂上直下の蜜藪を潜り抜け残雪のピーク。遂に木無山(朝日前坂)山頂(8:50)。二等三角点。地元の方の標識に感謝。山頂は雪なし。白山山系、荒島等の山々の眺め楽しむ。ゆっくり食事し休憩。先へ進み林道に出ようかと考えるが、踏み跡・目印なく断念し、来たルート戻る。下りは、登りより藪歩きが楽で、テープ目安に軽快に進む。途中藪ない残雪歩きで下降し過ぎて、登りの稜線出合いのピンクテープを過ぎて先のピーク藪に立つ(10:25)。早期下山あきらめて、已む無くスキー場への尾根ルートを辿る。残雪拾いと相変わらずの尾根藪歩き。登り下りを繰り返す、細長い2P(11:05)で、現在地と進む方向確認し次へ。歩きやすい尾根を探して藪歩きし、上り返すと目当てにした(蛇鏡岳)山頂。三角点と地元の方の表示板あり。一息入れ後は、細い急坂の道を一気に下ってゆく。途中背後に石畳状の急斜面を確認。その後、階段も出てきたが、藪が薄いだけの尾根が続く。スキー場まであと少しだったが、ブナ林の残雪、急坂・窪地に目を奪われ、残雪を一気に駆け下る。窪地は雪解け水手前の状態。後は、そこからの沢筋を一気に下り、平坦地、ブナの中の小藪、灌木・植林地等を徐々に下ってゆく。水が出てきた沢筋を目安に下ってゆく。雪のない植林地藪を辿り下ると林道が見えて橋の袂に出て、山入りとほぼ同じ場所の橋・林道に出たことを確認

し安堵。あとは少し林道を下り駐車場に戻る。この時期これ程残雪が少ないとは、今後予定する奥美濃・奥越の奥深い山々歩きは、何シーズンかかるか、果てしない気がする。残雪歩きを予定したが、今年は、残雪なく、藪歩き覚悟でトライすることとなりそう。でも今年は、偵察となる機会が増えるかも・・・。

4/16(土)福井東2山 晴れ

・「道斉山」11:40～14:30(2:50)道のない山 雪がないため、山頂近くまでと仙翁谷より大野市道の橋崩落地手前より林道入り、次の分岐を直進し谷の見えるところに駐車。谷の植生林植樹地を辿り、岩場を慎重に登り、急坂を獣道らしきところ、歩き易い所を探し上ってゆく。獣道に境界杭が現れ、さらに谷の奥に林道らしき道が横切っている。登り進むと尾根らしくなり、道らしきを辿り、淡々と上ってゆく。なだらかになった所で尾根は藪がキツクなり、尾根脇の藪の薄い所等探しながら小藪掻き分け進み、平坦なピークに三角点を発見。道斉山山頂で、布の登頂標識(H8/10)あり。少し仮払いされた山頂で石2つあり。笹・灌木の中で、樹間より、荒島、白山連峰が見えるも雪なし。食事し、来た尾根ルートを下山。天候晴れで視界良好。ブナ林楽しみ軽快に下る。最後植生地に出ず、笹を掴みつつ、急坂を慎重に下り、登りより奥の林道に出て戻る。林道から近い距離の藪山で、地元の方に林道等教えてもらい、何とか短時間で歩いて満足。

・「大師山」15:50～17:20(1:30)越前大仏のトイレ駐車場より往復。コンクリートの沢に登り林道出会い(1合目)。水場経て、3合目で獣道に迷い込む。トラバースし急坂の獣道経て前坂で登山道に合流。あとは、淡々と登り大師山山頂。三角点あり、広場の山頂で、勝山市街、奥の山々の眺めよい。帰りは、来た号目表示のある登山道を急ぎ足で駆け下る。市民交流センターゆったり湯勝山で汗を流す。翌日の天候は雨で、夜中まで居たが強風すごく、今回はここまで。

4/23(土)石川南3山、4/24(日)福井東2山「伝説のハイカー編」

・4/23 晴れ「山毛櫓尾山」9:15～12:25(3:10)林道ブナオ線送水管階段より往復。道のない残雪期の山。発電送水管 NO10 より急な階段をゆっくり登って、勾配が緩くなり、NO1 で送水管終点で、貯水槽。先はどうかと心配したが、笹への藪山ルートで結構整備され、目印テープと山道もある。一面のカタクリの花とブナの新緑を楽しみながら高度を上げてゆく。植林地以外は明確な夏道の踏み跡あり。高度を上げ上部で残雪現れると間もなく山毛櫓尾山山頂。平坦な残雪の山頂で、地元の山岳会の標識に感謝。樹間より白山・笹等眺めあり。一息入れ、晴天の中、残雪・ブナの新緑楽しみながら、軽快に戻る。

・「鷲走ヶ岳」山頂 15:25「白抜山」同 16:10 14:35～16:30(1:55)林道舗道終点三叉路より周回。地元の山作業している方に林道奥の登山口を教えてもらい、出発。始めから2つの登山路あり、左側の登山路を進むと尾根筋分岐。尾根を沢沿いに進み稜線。尾根をさらに進むと反射板の手前に方位版のある鷲走ヶ岳山頂。広い山頂だが、雲りで視界今一つ。二等三角点。来たルートを軽快に下り、沢水楽しむ。登る途中見えたピーク目差し分岐を左の尾根へと進み、植林地経て間もなく、白抜山山頂。鉄塔・案内標識あり。南側に白山連峰が春霞の中、見えて満足。整備された尾根道を下り、さらに左へ曲がり下ると始めに見た、右側の登山路に出て戻る。

・4/24 「伝説のハイカー編」「みつまた山」山頂 7:50「水無山」同 12:40 5:20～14:10(8:50)岩屋キャンプ場駐車場より周回。地図の登山路のある水無山と登山路のないみつまた山で、実際は、逆の状況だったことを確認。岩屋林道進み橋を渡り、水無山登山口を偵察するも、登山口不明。直ぐ引き返し、橋を戻り林道を少し進むとみつまた山登山口。先人の案内を頼りに山入り。急坂のブナの新緑の尾根道を楽しみながら登る。傾斜が緩くなり、少し行くと(伊知地山)山頂:三角点あり、ブナの新緑、朝日、小鳥のさえずり、沢の音、まるで天国にいるよう。さらに尾根進むとピークが奥に見えると共に西側に山稜を横切る林道の切り崩し道が見え唾然とする。整備された尾根の緩やかな笹道を進んでゆくと間もなくみつまた山山頂。平坦

な山頂で快晴の中、大きな標識眺めて一息。先への大きな道案内板に誘われ、少し下り、笹を掻き分け道を確認しつつ尾根を進む。鞍部より登り返すとすぐ(横谷山)。ここも大きな案内板あり、眺めよい。先にも縦走路らしきがあるが、ここは、地図を確認し、みつまた山の北のピーク確認へ。来たルートをもつまた山に戻り、北側の三角点を目指す。刈払いされ、整備された尾根を進むと(三ツ尾山)山頂。三角点と小さな表示板あり、山々の眺めを楽しみ下山。みつまた山経て尾根を下ると登りに見た石楠花とコブシの花、ブナの新緑を楽しむ。途中、地元の人と夫婦連れに会い、山話。地図にない整備された登山道は地元の山愛好家が整備しているとのことでその愛好者に感謝。途中、地図で向かいの水無山を見比べて歩くルートを確認しつつ下る。登山口に戻り林道を下り、上出橋を渡る(11 時前なので水無へトライ)。林道終点より右に踏み跡らしきあり、進むと沢の右の尾根に道らしきが続く、辿ってゆくとピンクテープあり。急坂をピンクテープ頼りに登ってゆく。この分では、地図の道は本物と思いきや徐々にその期待は裏切られる。上へ登るに従い、日当たりの良い小茨、道を塞ぐ横倒しの生木、笹原などが現れつつも、ブナの木等で歩き易くなり尾根のピークで稜線と交差。ここは木が疎らで歩き易いと進むが、尾根筋は藪が濃くなり、笹・灌木の中の道、方向がわかりにくい尾根藪等が出現。ピンクテープに助けられ、心が折れそうな中進む。なだらかな尾根を藪を掻き分けて幾つかのピークを進む。尾根脇の藪の薄いところを経て平坦なピーク出て、ピンクテープを辿ると念願の三角点。おまけにビニールと透明ファイル包装された標識もあり、ピンクテープを付けてくれたの先人の方々に大感謝。笹・灌木の藪中の山頂で、少し掻き分けると南側に集落が間近に眺められ、近いようで遠かった残雪のない藪山を実感。下りは来たルートを辿り、藪を掻き分けて淡々と下る。笹藪・灌木藪・横倒し生木等も下りは、あまり気にならず、淡々と下って林道に出る。水場で顔を洗い、のどを潤し、地元の方に挨拶して戻る。地元の人々に水無山は知名度がないことを確認し、2 つも良く登ったと呆れられる。

GW特集 I

・4/29(金)岐阜西 2 山 曇り「上谷山」7:35~13:15(5:40)徳山会館遊歩道口より往復。道のない山の予定が、テープ等あり、尾根伝いに進み、踏み跡もあり、途中わかりにくところもあるが、淡々と進む。細道の急坂を灌木に掴まり進み、上谷山山頂。二等三角点、表示板あり、山々の眺め良く、平坦な山頂。冬型で風強かった。下りにタオル落とし頂上まで引き返すが見つからず、ないことに気づいたすぐ近くでタオル確認。1 時間ロスして戻る。

・「花房山」14:35~18:00(3:25)藤橋城の近くの橋を渡った登山口より往復。時間を気にして植林地を急ぐがペース上がらず。幾つかのやせ尾根を慎重に登り、尾根ピーク。稜線は濡れた笹を掻き分け、進むとすぐ花房山山頂。三角点あり、平坦な山頂で山々の眺め良い。下りは、新緑楽しみつつ、一気に下る。

・4/30(土)岐阜西 1 山 晴れ「天狗山」6:15~10:35(4:20)前日も今日も登山口探すが不明につき、河川 NO4 林道近くに駐車し上に作業用赤ペンキあり、急坂取り付く。横への作業道らしく止む無く、植林の急坂登り、尾根の開けた明るいところに出ると4等三角点と境界標・テープある。後は、尾根伝いに急坂を辿り、登る。緩やかになり、新緑で分かりにくい、テープ等目安に薄い藪探して進む。急坂のしっかりした踏み跡ある細い道を灌木等に捕まりながら高度上げて稜線尾根。笹の丈が長い、本格藪に出会う。踏み跡等あり、薄いところを探して右往左往し進む。幾つかのブナを経て薄い笹の奥に念願の天狗山山頂。刈り払われた笹の中の山頂。表示板がブナの 3m上にあり、雪深さを物語る。雪なし。山々の眺めもよい晴天で、小鳥のさえずりを楽しむ。来たルートを新緑楽しみ、小道・岩の急坂は慎重に下り、四等三角点。直下の尾根を辿り下るとロープ・梯子現れ、林道河川NO4に戻る。駐車・山入り地点より 200m西であった。・五蛇池山偵察歩き 11:20~17:45(6:25)林道奥の製作中の橋は進めず、引き返し、林道をドンドン進む。落石の多い林道で、カモシカに会い、道を通せんぼしているため、にらめっこ。動かないため進むと谷に駆け下りていっ

た。大谷川の清流を楽しみつつ、道を進むとあまご釣りの釣果を確認している先客に上から挨拶。川沿いに左岸を突き進む。行き止まりで渡渉すると始めて案内表示。確信して、テープ等便りに沢を詰め、急坂に移り進む。右に回り、水のない沢に赤テープあり、詰めて左へ。後は藪の薄いところ探し、藪掻き分け尾根へ。境界標あり。山 2 つ。山の高さ、山容を見比べ、境界・尾根歩き跡ある高い方へ進む。途中までは、何とか進むが、尾根に石楠花等の木が立ちほだかり、大苦戦。それでも何とか。ピーク着。間近に蕎麦粒山見えるも、テープのみ。ここを五蛇池山見て、下山。最初下る方向間違え、トラバースし来た尾根に戻り、尾根上り口に戻り、急坂藪を慎重に下り、テープ等に沿って渡渉地点。あとは、清流楽しみ戻る。道路地図で確認すると登ったのは、蕎麦粒山と五蛇池山中間の(1260m峰)であることが分かり、悔しさ 100 倍。

・5/1(日)岐阜西 1 山「湧谷山」晴れ 4:25~8:15(3:50)旧スキーより往復。登山口探すが不明で、舗道を田んぼまで進み、旧道らしき草藪をスキー場に引き返す。スキー場の踏み跡らしきを辿り上へ。横に踏み後あるが途切れ、止む無く左の杉林へ。トラバースすると登山道に出会う。後は、植林地・ブナ林の整備された道を登り(丁子山)。一息入れ、尾根道を笹等書き分け進むと湧谷山山頂。三角点あり、笹・灌木中の平坦な山頂で、山々の眺めあり。下りの稜線で 300 名山を歩いた 79 歳の元気な方に会い山話。越美県境は、昔歩かれているが、藪多く、道案内も今一つと。左門岳もその一つ。ブナ新緑・朝日楽しみ下山。登山口探したが不明。大遠征のため、今回はここまで。

GW特集Ⅱ

・5/3(火)岐阜北 1 山「三方崩山」9:35~14:30(4:55)林道終点登山口より往復。メイストームが吹き荒れる中、暑いため半袖で出発。整備された登山道を新緑楽しみ登る。急坂経て、トラバース気味ルート歩き。風の音の少ない北斜面をブナ林に癒されながら進む。西の尾根に近づくに従い強風の凄まじい音が強くなる。尾根に出て、上空は獣のような風の雄叫び。登山道まで風の影響ないが、急坂上るに従い強風に近づく。山容が見渡せる位置まで来ると風は容赦ない。少し手前で、上に雨具付け、軍手でいざ尾根渡り。風が谷からまともに吹き付けるところは、足を踏ん張り飛ばされないよう歩き、ガレバで滑落注意のやせ尾根は、より慎重に地を這うように進む。数ヶ所の危険地帯経て残雪現われる。強風は変わらず、長い尾根を着実に進み、頂上近くのヒノキ残雪帯は風受けず心地よい残雪歩きで三方崩山山頂。二等三角点の平らな山頂で直接の風なく、一息。山々の展望あるが、強風音で落ち着かず、先の奥三方も行けたらと思ったが、強風で勢いよく流れる雲を見ていると、何もない鞍部では、吹き飛ばされる可能性大のため、断念し下山。下りも強風変わらず、やせ尾根は、踏ん張り注意し淡々と下る。尾根急坂の灌木樹林帯まで下りると安堵。まだ芽吹かない樹林は強風でも揺れるに任せるだけだが、少し下の新芽等は強風で新芽等飛ばされ、自然のなりわいを感じる。尾根より北のブナ帯に下ると風は嘘のように音も止み、新緑楽しみ戻る。メイストームの怖さを実感した山歩きで、天気崩れ・雨なく助けられた。

・5/4(水)岐阜西 2 山「大白木山(オジロギ)」7:35~10:40(3:05)折越峠より往復。地元の山菜取りの方に登山口教えてもらい、鉄パイプの急坂階段を登り、尾根に出て、後は尾根歩き。テープ・地元の方の刈払いもあり、軽快に進む。1Pの反射板へ寄り道して戻り、少し下り、トラバース気味に進み、直登で尾根に出る。後は、緩やかな尾根を進み大白木山山頂。二等三角点、表示・反射板 2 つある広場の山頂。周りの雪のない山々の展望・晴天・小鳥のさえずりを楽しむ。来たルートを淡々と戻る。昨日の強風が嘘のよう。

・「左門岳」11:30~14:50(3:20)晴れ 上大須ダム奥の林舗道終点より往復。林道進み、鉄板の橋 3 つ経て、林道終点。沢沿いに丸太橋 3 つ等沢歩きし、岩に始めて左門岳の表示。登山路が間違いないことを確認しさらに沢歩きし丸太橋 5 つ経て、尾根取り付き。急坂・直登のルートだが、植林地で整備され、階段もある。植林地終了地点では、刈払いなく、道を背丈以上の笹が覆う。藪スタイルで突入。下道しっかりして、広場を経て、笹掻き分け進むと左門岳山頂。三角点、表示あり、ブナ・笹の中の平らな山頂。西側に険しいそ

うな屏風山の展望あり。来たルートを軽快に戻る(沢はルートを確認しつつ)。

・5/5(木)岐阜西 2 山「岩岳」晴れ 5:20~7:50(2:30)昨日地元の方に教えて頂いた登山口のかなり手前の上葛橋手前に駐車し往復。橋を渡りすぐ林舗道を登り登山口。21/21のCD案内表示を辿り、整備された道の植林地進む。急坂経て尾根を進み、さらに急坂経てなだらかになると間もなく岩岳山頂。三角点あり、樹林の中の平らな山頂で展望今一つ。来た尾根を急坂は慎重に足場を確認し軽快に下り、沢水、清流を楽しみ戻る。

・「蠅帽子嶺」9:25~14:10(4:45)晴れ 国道 157 号登山口より往復。いきなりの根尾西谷川の渡渉。水嵩多く、渡り口を上へ、下へと探すが、浅瀬なく、ピンつき長靴を脱ぎ、膝上の水量にめげず渡りきると捲くったズボンも膝上まで浸かりびしょ濡れ。ズボンを上から絞ると水が滴る。あまり気にせず、長靴を履いて地蔵を拝み、いざ山入り。テープあるが、道がトラバース気味で歩きにくい。上へ進むと尾根が明確になり、テープ気にせず、尾根の歩き易いところを進み 1P。少し進むと 908m地点表示。しっかりした尾根道を進むが、高低差少なく、ズンズンと奥に進む感じ。3P943m地点表示過ぎると尾根が藪気味に。2 本杖をデポし小藪掻き分け、急坂登ると稜線分岐。左へと道なりにルート確認しながら進むと尾根分岐。目当ての峠目指し空身で降りてゆくと蠅帽子峠(水戸浪士の道)。地蔵を拝み、デポに戻り、さらに分岐まで戻り今度は、東へ。間もなく、蠅帽子嶺山頂。三角点・標識ある平らな山頂。能郷白山等の眺め楽しむ。来たルートを分岐より尾根へ。小藪掻き分け、杖回収し、新緑楽しみつつ、川原まで一気に下る。渡渉は、目印表示のあるメインルートを渡渉するも、水嵩多く、再び膝上まで濡れながら戻る。

・5/6(金)休暇 岐阜西 1 山「屏風山」4:15~10:20(6:05)曇り 越波集落奥の林道への落石等通行不能地点手前の駐車地より往復。前日崩壊石をそのまま均した林道先の駐車地に駐車し、下見。今日は諦め、山菜採り帰りの夫婦に挨拶し山の情報を収集。林道歩き長いため、ゲートまで下見し、珍しく明るいうちに夕食取り、食料を確認。山行、移動距離・時間等を整理し、薄暗くなり就寝。崩壊石を均した嵩高の道は、FF車で帰れるか不安を抱きながら、未明に起床し薄明るくなりかけた頃出発。林道を岩が崩れ車通行できない地点・ゲート・林道に崩壊岩石等が上積みされたところ等経てズンズン進む。明るくなり、清流を見ながら、林道終点近くの屏風山登山口(5:25)。表示あり、助かる。赤プラ・テープ等の目印頼りに川原へ降り、テープ等を追い、沢筋を登ってゆく。詰めたところで右側に熊鐘ある急坂の取り付け口が現れる(5:55)。急坂は、手・足場確認しつつ、慎重に一步一步登る。ヒノキ樹林の歩き易い尾根も転ぶと一気に落ちるため、慎重に登る。最後は小藪の細道を登ると尾根となり一息。後は、尾根の笹等掻き分け、石楠花ロードを楽しみ高度を上げて行く。途中、檜の巨木群を経て、小灌木・笹の急坂細道を木・笹等に掴まり登ると山容が際立つ屏風山山頂(7:25)。二等三角点、360 度の大展望、白山、北ア、荒島、ここ数日登った山々が見れて大満足。陽光ある曇りで、低笹の平らな山頂。虫・ダニおり、シャツ脱ぎ確認。一息入れて、急坂を木、笹に掴まり、檜の大木、可憐な石楠花に心癒され、一気に尾根末端。気を引き締めて、慎重に急坂下り。ゆっくり慎重に下って川原に下りて一安堵。沢水で顔を洗い、緊張を解く。後は沢を楽しみながら下り、登り返して林道の登山口(9:00)。清流・新緑の中に紅一点のツツジ等を楽しみながら戻る。心配した林道崩壊石の均された小山道は、最初車の下部をぶつけたが、一気に駆け上り、下って車も支障ないこと確認。天候悪化で午後は雨、明日も山の天候は不明につき、今回の大遠征は、ここまで。

大遠征しりベンジ

・5/14(土)岐阜西 2 山「伝説のハイカー編」「蕎麦粒山(ソムギ)」山頂 11:05、「五蛇池山」同 14:20 晴れ 大谷川沿い林道終点より周回。案内表示ない林道終点で地元の人に会い、付近の山情報教えてもらい感謝。(この山域は、蛇の大量発生で 6 月以降注意。さらに奥の千回沢・不動山(両山共登らないといけない山)、沢詰めか、残雪期のロング工程で山中泊必至。尾根藪は到底無理とのこと。両山は、岐阜 100 山で

最も手強く、この2山のため、断念する人が多いとの話。移動等考えるとかなり困難でチャンスは限られる山か。)8:05~16:20(8:15)林道終点より前回と同じ旧林道経て沢沿いに進む。前回 4/30 より道がかなり草丈に覆われ藪化しつつある。先行の話してくれた1人とさらに先行の2人パーティ(共に手前の沢分岐より詰めて蕎麦粒山を狙う身軽な格好(沢歩き用リュック等)を追い抜き先へ。前回と同じく川の左岸を突き進み、渡渉地点(9:00)。前回と違い真っ直ぐ奥に進むと地元山の会のソムギ山の案内表示と道あり、取りあえず進む。急坂を木の根等に掴まりながらドボン高度を上げてゆく。尾根が緩くなると木・枝が徐々に邪魔をしてくる。それでも下の道はしっかりしており稜線尾根に出る(10:05)。右が前回の小蕎麦粒で左へ小藪掻き分け一気に下って行く。鞍部では、大きな笹竹がルートを塞ぎ、これは大変なところと思いつつ、掻き分け進むと尾根道に出会い安堵。不明なところもある鞍部の尾根を大笹等掻き分け進む。鞍部より上り返して進むとしっかりした道が表れ、急斜面をゆっくり登ってゆく。傾斜緩やかになると道が分かりにくい、それなりに尾根を小藪掻き分け進む、平坦な尾根を進むと前回小蕎麦山で見た念願の蕎麦粒山山頂。二等三角点、360度の展望を晴れた天気のもと楽しむ。シャツ脱ぎダニを確認しズボンについたダニを払う。尾根続きの中の開けた山頂。少し暑い中、一休みし、尾根を戻るも、なだらかな尾根を進み過ぎ、道を見失ったことに気づき、戻りつつトラバースし元のしっかりした道に戻る。一気に下り、ルートを間違えつつも、尾根筋進み鞍部。大笹で塞がれた道は、それなりに道があった様子。鞍部より上り返すが、下りより藪が濃く感じつつ、稜線分岐に無事戻る。今度は東へ。最初道はあったが、倒木以降道不明多くなり、尾根道らしきを辿る。大岩に出会い右より周り中央を登って越えるともう道らしきはない。尾根藪を掻き分けゆっくり進むと何とか前回の小蕎麦粒山。前回より、木等の成長早く、既に藪化している。一息入れ、尾根下り。前回の左よりを反省し、右よりを下るも又尾根を外れたことに気づき、少し戻り、トラバースしつつ、本尾根に戻る。前回ハッキリしていた尾根道は、植物の成長等でわかりにくい。それでも、尾根を下り進むと五蛇池峠。道らしきあり、安堵。尾根道を登り進むと窪地に出て、獣道らしき道のみ。人があまり入らない道のように。道らしきを辿り、藪化しつつある道を笹・灌木等払いつつ、暑さにバテ気味ながら登ってゆく。疲れのためか、中々辿り着かないとあせる。平坦となり小池を見て進むと念願の五蛇池山山頂。三角点ある平らな山頂で、表示板あり。ブナ・笹・灌木の中で、視界今一つ。ハエ等多く、すぐ下山へ。来たルート確認しつつ、峠まで戻る。途中、北側に集落見え、あれが徳山ダムのため、人がいなくなった旧門入集落かと思いを馳せつつ、さらに奥に連なる山々は、本当に幻に近い山々のように思われる。峠より笹を掻き分け水のない沢上部経て笹等に掴まりながらトラバース道を辿る。進んだ先で、前回道を見失った水のない沢に出会い安堵。あとは前回歩いたルートをテープ等頼りに下って行き、前回の五蛇池案内表示。その少し奥がソムギ山表示で無事周回できたことを確認。渡渉し、大谷川の左岸沿いの道を清流・魚影、流れを楽しみつつ、登山口に戻る。2人パーティの車なく、この山域の情報を教えてくれた人の車があることを気にしつつ後にする。

・5/15(日)岐阜西1山「小津権現山」曇り 5:45~9:25(3:40)小津登山口より往復。登山口に白山大権現の鳥居あり、入山。整備された登山道・森林を楽しむように登る。急坂経て(高屋山:三角点あり)。一息入れ狭まる尾根の登り、下りを繰り返す、急坂経た丘のピークが小津権現山山頂。祠・三角点あり。トレランの若者3人が休んでいるところで花房山から縦走してきたとのことで藪もあまりひどくなかったと淡々と語る。軽身だが、若者パワーに圧倒される感じ。挨拶して来た道に戻る。下り始めてすぐに福井の山歩きのパテランの方に福井の付近の山情報・福井の150山の本があることなどを教えてもらい感謝。下る途中多くの登山者・8人のパーティにも会い、駐車場は満杯に近い状態で、この時期人気の山のように。大遠征のため、今回はここまで。

福島百山紀行編 南会津1山

(足倉山)曇り11:25~13:55(2:40)道の駅下郷より旧国道R289通行止めゲートより周回。登山道のない山

で、登山口不明。旧国道進み水のない沢の崩壊止め堤より急坂取り付き、獣道らしきを木の根等掴みつつ、高度を上げる。岩場に出て、手・足元確認しつつ、急坂を壁面と密着して慎重に登り、藪掻き分けて尾根。檜林の中、歩き易いところを探し、尾根伝いに北東へ。小藪掻き分け進み稜線尾根。山頂らしき峰が先に見えて一息。檜藪掻き分け、尾根進み、大岩を経て、藪の薄いところを探してゆっくり進むと間もなく足倉山山頂。三角点あり、細長い尾根の山頂で旭岳等山々の眺めよい。一息入れ、来た道に戻る。シクナゲが見頃で、尾根を軽快に下り、歩き易いところ、道らしきところを進んだため、来た急坂ルート過ぎ急坂尾根。なだらかになり、左よりにトラバース気味に下り、旧国道に出会う。そこは、通行止めゲートが見える位置だった。下りで尾根に目印 1 個のみ確認できた、あまり歩かれていない山。翌 5/22(日)やまゆき会百周年行事に参加。うまくないスピーチと久しぶりの太極拳を披露。

富山東 2 山

・5/28(土)曇り「濁谷山」11:25~13:30(2:05)坪野林道途中右に曲がり林道終点手前の崩壊した作業小屋跡より往復。やや荒れた林道を奥まで入り、林道歩き、すぐ終点。大阪の車 1 台あり。標識ないが、テープ便りに植林地経て、道に覆い被さる草木を払い進む。大阪から来た人に挨拶し、急坂等登り、小藪掻き分け濁谷山山頂。地元の人が山頂でゆっくり佇んでおり、挨拶。一等三角点、曇りで視界今一つ。山話して食事し来たルートを軽快に戻る。藪化しつつある山。

「大倉山」14:45~18:00(3:15)林道交差点に駐車し、谷沿いの林道終点登山口より往復。昨年下見時より草丈なく、すぐ登山口。ロープ等のある急斜面尾根を、大汗かきながら、高度上げてゆく。高度表示石等整備された登山道で道の不安なく、進む。時間帯遅く、熊に出くわし、大声上げ、笛を吹きつつ通過。曇りで意外なほど快調に上り、ゆるやかな稜線。間もなく大倉山山頂。平坦な尾根沿いの山頂で、三角点、登山道開設の碑、祠あり、感謝。奥に進むも展望は雲の中。一息入れ、帰りは、急坂を一気に下り登山口。林道経て戻ると天気回復し青空が見えた。どこかで付いたダニに背中を噛まれたことを夜中に気づく。

・5/29(日)富山中 1 山

「高頭山」5:20~8:30(3:10)晴れ 発電所前ゲートの登山口駐車場より往復。刈り払いされた登山口より登り、鉄塔。整備された道を進み、電力施設への道と別れ急坂植林地をゆっくり登る。上に出ると大きな送水管があり、送水管に沿って緩やかな道を進む。送水管と別れ、急坂に取り付き、登ると尾根。トラバース気味に進み尾根に出ると見事なブナ林に小鳥のさえずり。緩やかな坂を進み、1P 経て平坦な高頭山(タカズコ)山頂。樹林の中に二等三角点。朝日・新緑のブナ、セミの声に季節を感じる。最高点まで進み、ブナ林・表示板 2 枚確認して、一気に下山。誰にも会わず、山を独占。駐車場で釣り人に挨拶。

・(小白木峰)10:10~12:25(2:15)ダム取水口・赤橋のあるところより、テープ等に導かれ、沢より尾根に取り付き、沢沿いにトラバースしつつ登る。沢を離れ、尾根に取り付き少し行くと山の案内表示板あり、安心して進む。夏の日差しの中、木陰・日差し等を交互に繰り返す坂を淡々と上る。暑さで汗が噴出す。緩やかに池・湿地を経てなだらかな尾根上の(小白木峰)山頂。三角点あり、晴れて日差し強い。奥の展望所に山菜取りがメインのリュックが多数。ラジオ鳴らし山菜取り。御岳・乗鞍・槍等の山々の展望、近くの金剛堂、白木峰等の展望楽しむ。今日は好天でかなり山菜取りの人が居た。下りは軽快に、竹の子探しながら下る。後で気づいたが、間違っただけで登ってしまった山(白木峰は 300 名山で登山済み)。暑さのため、今回はここまで。

6/4(土)「伝説のハイカー編」富山西・石川東2山「奈良岳」山頂 13:00「奥三方岳」同 14:55 9:15~19:05(9:50)晴れのち曇り ブナオ峠より長距離往復。峠に地元の車多数あり。冬場の林道通行止め解除され、整備された登山道の尾根をブナ林楽しみながら淡々と進み、大門分岐。2度目の大門岳に登り、景観楽し

み戻ると地元の方と世間・山話で話しが弾み少し時間を喰う。尾根のアップダウンを繰り返し(赤摩木古山)山頂。夫婦に挨拶し先へ。後は、人に会わず、大笠方面への登山者を見かけただけ。階段等整備された道のアップダウンを繰り返し、急坂登ると(見越山)山頂。ピークの藪を訪ね表示石の山頂に戻り、下って登り返すと奈良岳山頂(15年前に続き2度目で山数にカウント漏れ:当時も同じ時期大笠目指したが、今日の整備された登山道が藪気味で大苦戦し先の残雪で方向不明で引き返した。当時は、石川側からの道が今日来た道同様整備されていた記録を後で見)。三角点あり、白山等展望楽しむ。さてここからが本番。山菜採りの地元の方は、道ない藪との話。身支度整えていざ突入。下に道はしっかりあるが、上は灌木・笹等が覆う。遠くに見える奥三方目指し下ってゆく。尾根沿いに藪薄いところ探し進むとしたのしっかりした踏み後もあり、行けるところまでと思ったが、意外と体力消耗せず、淡々と下る。崖沿いの張り出した藪道は体全体で掻き分け慎重に進み鞍部。登り返しは、道不明なところあり、右往左往しながら踏み後らしきを確認しながらゆっくり進む。疲れた頃、どうにか石川側からの道と合流。ピンクテープと若干の刈り払いあり。ネットで見た5年前の記録の奈良岳まで1.4kmの表示板は粉々になっていた(熊の仕業?)。同様な藪を掻き分け進むと念願の奥三方岳山頂。石川側の地元で建てた標柱が倒れ、建立年月から、昔の名残を残す寂しい情景。山頂は小藪の中だが、大笠・笈、白山連峰の眺め良い。虫多くすぐ下山。分岐までと鞍部までは順調に下る。その後の奈良岳への尾根は先が見えるが、踏跡覆う藪は登りがキツイ。崖沿いは慎重に、目印は古いテープ1つ確認した位で、本藪化しつつある。登るに従い藪が濃くなり大苦戦。声を出しながらも、何とか奈良岳に辿り着き安堵。見た目には緩やかな尾根だが、使われなくなった登山道の本藪化を体験。後は、整備された登山道尾根を淡々と進み下る。登りには気づかなかったが、急坂の整備された階段をゆっくり登り返しを繰り返す。大門分岐からは軽快にブナ林楽しみ下る。日の長い時期で明るいうちにブナオ峠に無事戻る。

・6/5(日)晴れ 富山西2山、石川東1山「袴腰山」5:15~6:40(1:25)峰越登山口より往復。整備された道を登り、小屋。さらに急坂を踊り場経て登ると稜線。少し行くと袴腰山山頂ピーク。樹林の中で視界今一つ。南に向かい展望地より白山等の眺め楽しみ、引き返し今度は北へ。展望台より展望をすむ。山の標柱あり。先の三方山へは、道の刈り払いなく草丈膝位で断念し下山。途中3人パーティーに挨拶。山開きされたので来た様子。朝日・ブナ林楽しみ戻る。

・「八乙女山」8:35~9:05(0:30)峠より往復。山頂は、植林地の中で、三角点あり。北の展望地より街並みを楽しみ戻る。手前の(丸山):四等三角点を散策(7:45~8:05)。

・「宝達山」車で山頂。1等三角点。展望楽しみ、神社・ブナ林を散策(11:00~11:15)。

新日本山岳誌以外ふくしま百山紀行編(3山)

・6/11(土)会津南1山(那須沢山)12:40~14:20(1:40)晴れ 赤土峠より往復。ヤブ山と覚悟して偵察予定が、林道進みすぐ尾根に取りつき、登山道表示板と道を確認。巨木の杉を経て、尾根を案内表示等頼りに軽快に進み稜線尾根。少し藪はあるが、問題なく進むと間もなく那須沢山山頂。二等三角点の小藪の中の平坦な山頂。蝉の合唱賑やかで、夏の日差しが強い。すぐ来たルートを淡々と戻る。樹林の中を歩き、森林浴楽しむ(日光での泊りの同級会に参加)。

・6/12(日)晴れのち曇り 会津南2山

(黒峠山)9:45~12:25(2:40)道の駅番屋近くの林道のゲートより往復。強い日差しの中、林道を歩き、地元の人に聞いた橋の崩壊の凄まじさを確認しつつ、慎重に通過。分岐より左の林道を進み、尾根末端より山入り。何も案内なく、急坂の草小藪を上に進む。尾根に出ると道らしきとテープあり。案内されるように尾根を進む。歩き易いところを探し高度を上げて踊り場。さらに境界標・獣道らしき尾根を淡々と進む。途中わかり難い処もあるが、急坂を経て黒峠山山頂。山頂は細長い尾根藪の中で、ヤブを掻き分け三角点の山

頂を確認。視界今一つ。ヤブを出て一息入れ、来たルートを確認しつつ、急坂は慎重に歩いて林道経て戻る。早い上がりで、道の駅でゆっくり昼食。

(家老岳)13:55~18:20(4:25)羽塩沢林道鉄塔脇より往復。昨日別の冬用登山口で地元の人に聞いた林道が上まで続いているとの情報を元に七ツ岳登山口駅より北側の林道進むと鉄塔あり。とりあえず車駐車し偵察の山歩き開始。林道を周りの状況を確認しながら進む。林道分岐に羽塩沢・家老岳の案内表示板あり、確信して林道を進む。横切る沢に魚影を確認しつつ、歩く。一枚岩の沢を渡り、曲がる林道を離れて林道終点の堰堤。洪水等で石ころだらけの沢に出てピンクテープに誘われ、水のない沢歩き。う回路経て沢沿いに杉等の植林地道をトラバース気味に高度を上げてゆく。途中 2 つピンクのテープ分岐の下側を通り、行き止まりとなり少し引き返し、急坂を上へと昇り尾根。前方に目指す山が見え、安堵するも、かなり先のように。目印はないが境界標・獣道らしきを辿り、尾根伝いに高度を上げてゆく。広い裾野は、位置を確認しながら、獣道を進む。方向転換地点で赤布をつけ、ヤブの薄いところを探し獣道らしきを登ってゆく。平坦地に出て、奥の標識のあるところまで迂回し進むと家老岳山頂。表示板あり。平坦な山頂で、樹林の中のため視界今一つ。一息入れ、来たルートを確認しつつ、赤布回収し下る。作業道に出て安堵し、淡々と下る。林道では、やや早い木苺を楽しみながら、鉄塔脇の駐車地に無事戻る。

6/18,19 石川南4山

・6/18(土)晴れ「白山釈迦岳」9:35~15:15(5:40)一ノ瀬釈迦新道登山口より往復。道路脇に十数台の車あり人気の山(?)。遅いスタートで植林地・樹林帯経て作業林道。淡々と進み、谷の工事作業場経て登山口。あとは、なだらかな道をブナ林等の森林浴楽しみながら進む。水場経て、ダケカンバの灌木帯。好天で暑さに体力消耗。下山の人々と挨拶するうち、高山植物を目当てで来ている人が大半のよう。前峰経て、白山釈迦岳山頂。三角点あり、白山等山々の眺め、陽光楽しみ、昼食。来たルートをブナ、森林浴楽しみながら戻る。

「大峰」17:15~19:15(2:00)旧光谷集落碑の広場に駐車し碑裏面の旧地図参考に、西へ進み、テープより旧道を進む。ピンクテープを勘違いし、その急斜面より取りつく。獣道らしきを尾根伝いに進み少し下り前方の山を目指す。獣道を小藪掻き分けつつ進み、鉄塔 1。赤テープ出て、しっかりした道も出て安堵。そのまま坂を上ると2つ目の鉄塔が山頂。平らな山頂で、日本海・山々の眺め楽しみ、来たルート戻る。途中本道に出会い、惑いつつ道を下ってゆくと最初間違えた地点経て無事戻る。

・6/19(日)晴れ「火燈山」5:55~7:40(1:45)R360 中ノ峠より往復。三坂トンネル西口駐車場より道探し。南側に道らしきあり進むとピンクテープあり。とりあえずそのテープ等頼りに植林地を上って行き、尾根に出る。尾根を北側に道らしきを確認しつつ進む。幾つかの方向転換経て急坂上ると火燈山山頂。三角点あり、白山、山々、朝日、集落等の眺め楽しみ、来た道を着実に戻る。

・「松尾山」7:45~13:55(6:10)セイモアスキー場内の林道笠山線ゲートより往復。林舗道歩き。管理用ゲートのため、長い林舗道歩きを強いられる。木苺が鈴なりであり、疲れ等癒してくれた。スキーセンターに出て、急坂上り、砂利の作業道へ。スキー場は草丈高く、ショートカット歩きできず、曇りでも暑い中、ゆっくりと作業道を上る。リフト最終点経て進むと(三雄山)山頂。平坦な山頂。作業道をアップダウン繰り返す、林道終点。後は、ブナ林の中進み、カモシカの嘶きを初めて聞き、間もなく松尾山山頂。三角点あり、樹林の中で視界今一つ。展望地の切り開きより白山を眺め、降り出した雨を気にしつつ、来た道に戻る。天気予報は降水確率低かったのにとブツブツ。木苺を一人占めで楽しむ。時間を喰い、最後は本降りの雨に会いつつ戻る。

(高倉山)梅雨時天候不順のため近場。曇り 10:40~15:10(4:30)R131 中山峠近く鉄塔脇より往復。道のない藪山。地元の山菜取りの人に挨拶。道はなく、鉄塔まで道ありとのこと。林道・東電鉄塔の作業道を辿り鉄塔。先の作業道は下りとなり引き返し、尾根筋を上へ。道らしきあり、階段も出て踊り場。あとは何もなく、昔の踏み跡、獣道を尾根伝いに淡々と登ってゆく。藪の薄いところを探し、時には、笹藪突入等して、藪の枝を折りつつ登る。急坂経てピークが(高倉山)山頂(13:10)。確認のため、西の尾根の端まで藪を掻き分け進み40分時間ロス。山頂に戻り、ピンク・赤テープ、昔の鉄板の表示で山頂を再確認。大白森、旭等山々の展望を楽しみ、下山(14:00)。来た尾根藪ルートを確認しつつ、淡々と一気に下る。鉄塔に出て安堵し、急ぎ足で戻る(下り 1:10)。

梅雨で天候不順につき近場。

・7/2(土)ふくしま百山紀行 南会津(2山)曇り (袴腰山)10:30~14:20(3:50)小峠林道ゲートより往復。道のない山。ゲートより旧伐採作業道を進み終点。藪装備整えると、先にピンクテープ1つ。そこを目安に通過し、イチゴ茨、急坂ガレバ経て稜線尾根 1P。尾根伝いに獣等道らしき進み、2P。先に目標の山見える。急坂を下り、広い鞍部、目印赤布つけ、尾根の小藪を枝を折り目安としつつ、坂を進むと、大きな岩・檜、ブナ・ナラ林の袴腰山山頂。樹幹より山々見える。来たルートを確認しつつ、淡々と戻る。

・(高畑山)14:30~19:20(4:50)曇り 木賊温泉手前小高林より往復。林道荒れているため、西根川の橋手前の空き地に駐車し往復。道のない山。荒れた林道を終点まで進むと、先は道あるが笹が覆う。少し進み、植林地急坂登り尾根に。尾根進むが、真藪となり、沢沿いの笹路に戻る。沢沿いの道進むと岩々の沢に出て道消失。止むなく右の尾根の獣等道らしき尾根を上ってゆく。目指す高畑見えたところで、先が遠く感じられ、タイムアップ(16:20)で戻りかけ、折れ枝見て、ルートであることを確認。再起動。稜線尾根に枝折りして出る。さらに枝折して 1P。鞍部経て、急坂の小藪。枝折目印付け大汗かきつつ、赤布目印付け、只管急坂を上る。なだらかになると高畑山山頂。三角点と旧三角点あり。平坦なナラ等樹林の中の平らな山頂(17:40)。視界今一つ。大汗でタオル絞ると汗が滴る。来たルートを枝折目印に助けられ、確認しつつ、赤布回収し、一気に急ぎ足で下る。沢に出て一息入れ、薄暮の笹道、林道経て戻る。戻ると天気予報どおり雨が降り出した。

石川能登半島9山

・7/9(土)3山 雨のち曇り「宝立山」14:20~14:45(0:25)下山してきた地元の人に教えてもらい歩く。電波施設脇の林舗道駐車し周回。雨本降りの中、目印頼りにすぐ宝立山山頂。一等三角点あり、樹林の中。最高点の神社拝み戻る。

・「山伏山」15:55~16:35(0:40)ランプの宿入口向かいの須須神社鳥居階段より入り、旧キャンプ場脇経て、奥の鳥居。急坂登り奥社が山伏山山頂。灯籠に表示板あり、神社拝み戻る。

・「岩倉山」17:35~19:10(1:35)ポケットパーク窓岩より周回。海岸沿いをバス停探し歩き、地元の人に教えてもらいトンネル手前の千体地藏案内を進む。階段等整備されているが、草刈りはまだ。寺との分岐を左へ進み急坂登ると千体地藏と展望台。奥に進むが下りの道で引き返し、分岐まで戻り、岩倉寺へ。窓岩分岐経て岩倉寺。手前の登山道の急坂登り、間もなく左に入ると岩倉山山頂。三角点ある樹林の中の山頂。奥の広場・電波塔まで行き戻る。寺を経て分岐より窓岩方面を駆け足下りで窓岩へ。丁度夕日が沈む時刻に戻り、東の間の夕日を楽しむ。

・7/10(日)奥能登6山「高洲山」5:30~5:55(0:25)神社下の駐車場より遊歩道を往復。航空自衛隊と隣り合わせの神社が山頂で、拝み戻る。

・「鉢伏山」6:20~8:15(1:55)高洲山手前に案内標識あり、近さを尊び出発。旧道で歩かれていないため、

草藪の茂り放題。背丈以上の草藪を掻き分け、左の急斜面・右の急斜面の間の藪道をゆっくり進む。下りとなり視界開け、鞍部より登り返し、別の林道合流点より草の多い普段の林道状態となり、平坦な道を進む。間もなく、林舗道に出会い一息。イチゴ楽しむ。林道進み、分岐を右へ行き、林道に覆い被さる草木を避け進むと三叉路。そこが、鉢伏の登山口。広い林道あり、車が入って来れるが、かなりのロングドライブ覚悟。急坂登り、平坦となりすぐ鉢伏山山頂。一等三角点。樹林の中、朝日心地よい。戻りも同じルートで、鞍部よりやぶ掻き分け進み、右の尾根にとりつき、尾根より上へ小藪進むと立派な林舗道に出て安堵。周囲を偵察した甲斐あり。カーブミラーと電柱の目の高さには赤テープ確認。同じルート歩く人いる様子。あとは、林舗道を淡々と進み、下り、表示版に戻る。

・「三蛇山」9:40～9:55(0:15)地元の方に 2 度道を教えてもらい、南側長井町・房田町・水芭蕉鑑賞地経て風力発電 2 号機脇に駐車。すぐ道脇に案内板あり、小藪掻き分け三蛇山山頂。一等三角点、青空心地よい。樹林の中の山頂。

・「番場山」11:05～11:30(0:25)皆月海岸奥の林舗道進み、ピーク手前に駐車し往復。ピーク経て少し行くと風力発電予定地の案内板。刈り払いされている道に入り、境界標らしきを進むと間もなく番場山山頂。ピンクテープ 1 つと三角点あり。夏の日差しは樹林の中の平坦地で和らぐ。来たルート戻る。

・「猿山」12:00～13:00(1:00)猿山岬灯台駐車場より周回。駐車場より進み、左に通行禁止表示。林舗道登ると娑婆捨峠。さらに進むと猿山岬灯台。尾根を登り進むと欣求峠。一息。通行禁止ロープと表示あり。草刈りせず、花を守るためか不明。稜線進むと程なく猿山山頂。三角点あり、樹林の中の山頂で、巨木倒れかけ。北方の小藪尾根進み、急坂・小藪掻き分け、林舗道に出てすぐ駐車場に戻る。

・「別所岳」14:00～15:20(1:20)のと里山海道別所 PA より往復。山見え暑い日差しの中、橋を渡り、林舗道を淡々と進むと別所岳山頂。三角点あり、穴水湾、山々の展望楽しむ。来たルートを旬の野イチゴ積み放題で戻る。

大遠征のため、今回は、ここまで。何とか 2300 山 を通過した。

7/15(金、休み)～7/17(日)大遠征記

・7/15・16 中央アルプス3山 伝説のハイカー編「東川岳」山頂 17:00「熊沢岳」同 18:30 (赤柳岳)同 5:20 空木岳登山口より周回。10:50～翌日 10:00(23:10)。曇り・小雨のち晴れ
平日でも駐車場が一杯の登山口を遅めに出て、整備された道進み分岐より坂を登ると(池山)山頂。三角点あり、街の展望良い。小屋・水場経て、本道に戻り、長い道程をやや重めのリュックを気にしながら、高度を上げて行く。日帰りの登山者に挨拶。避難小屋ルートが花見れるとのこと。分岐より避難小屋へ進み、4名のパーティーに挨拶して一息。沢筋の花畑を旬のチングルマ等楽しみ登る。途中より小雨。雨具着け、急坂進み。空木駒峰 H 着。体力消耗しゆっくり坂を登ると2度目の空木岳山頂。曇りで視界なし。北へと進む。大岩を抜けあとは下りのため、重い荷物をデポし、サブザックの軽身で一気に急坂下ってゆく。鞍部の木曾殿山荘より急坂登り返し東川岳山頂。表示柱あるも、雲で視界なし。さらに北へとアップダウン繰り返し、大岩が目印の熊沢岳山頂。巨岩・ハイマツ尾根の山頂。一部青空でも視界乏しい。遅いため、すぐ戻る。尾根は、ハイマツ・岩稜帯歩きで、戻りは軽快。東川岳手前のピークで、岩の塊の空木、半月よりためめの月明り、駒ヶ根の街明かり、青空が、絶妙の空間を創り出し、至高の一時。月明りで木曾殿に下り、急坂をゆっくり上り返し、ムーンウォークを楽しむ。岩々帯は、明かり付け、デポ荷物回収し少し進む、体力限界で空木岳手前で、ツェルト泊(21:15～4:20)。翌日は、好天で、空木経て南へ行く途中日の出。稜線の岩々等経て(赤柳岳:百高山)山頂。南ア、富士、御岳、中央アルプス主稜線、朝日の中、大展望楽しむ。空木岳を経て来たルートを淡々と戻る。途中、上りの登山者の多さに驚く。

・7/16(土)「烏帽子ヶ岳」13:10～17:30(4:20)鳩打峠より往復。峠に車が沢山あり、登山者?。遅い出発

のため、淡々と進む。合目表示のある道進み(小八郎岳:三角点ある広場)山頂経て烏帽子へのルートに合流。笹の道を急ぎ進むと、多くの下山者に挨拶。これからと心配がられる。飯島ルートと合流し尾根進み、急坂で、若者一行に挨拶。急坂・大岩(烏帽子岩)経て烏帽子ヶ岳山頂。二等三角点、晴れ、中央アルプス、街並み等の展望楽しみ下山。岩・急坂は慎重にあとは、歩き易い笹原の道を速足で駆け下る。登山口で若者一行に再び会う。

・7/17(日)長野南1山、岐阜東1山

「風越山」4:10~8:50(4:40)飯田市運動場駐車場より往復。薄暗い中、ショートカットで獣道・植林地、沢経て急坂登り、本道へ。あとは、整備されて広い参道を淡々と進み、秋葉さま分岐。右回りで登り、間もなく(虚空蔵山:社ある広場)山頂。さらに参道進み、鳥居、下馬等経て、白山神社奥宮。左側進み下り、上り返して、笹かき分け進むと平らな広場の樹林の中の風越山(権現山)山頂。三角点あり、視界今一つ。下りは、来たルート淡々と進み、途中地元の山愛好者に挨拶し山話。林道登り始めのところで地元の登山者に挨拶(もう、降りて来た)。

・「富士見台」12:15~13:50(1:35)神坂峠より往復。整備された遊歩道歩き。小笹の中にササユリ見ながらなだらかな道進み、富士見台山頂。家族・若者の登山者がい。雲で視界なく残念。足に疲れが残り、あとは山歩き偵察とし、今回の遠征はここまで。

7/29(金)~8/2(火)夏休みで「やまゆき会100周年登山」に参加。

・7/29(金)岐阜北1山「蕎麦角山」11:35~15:20(3:45)晴れ 登山口不明で、地元の人に林道状況(通行止め等)教えてもらい、運動場奥の施設の先の途中左折した林舗道終点より沢脇の道らしき(獣道)辿り、植林尾根末端。植林地を進み、伐採跡を上に進むと本登山道に合流。ピンクテープ等頼りに一部不明なところあるが登り進むと蕎麦角山山頂。三角点あり、樹林、藪の中の平坦な山頂。本道に沿って下ってゆくとあつと言う間に林道終点のテープが下がる地点に出て安堵。後は林道を何度か左折し、舗道に出て、草が茂る林道へ左折し進むと駐車地に戻った。

・7/30(土)岐阜北1山「日照山」「伝説のハイカー編」5:20~16:30(11:10)道のない藪山で通常は残雪期に登る山。朝早いので、偵察で行けるところまでと入山。R156の尾神4洞門より植林地をトラバースし、獣道らしきを進むと尾根道、鉄塔路へと続く。3つ目の鉄塔で横の連絡路を確認(後で大事な選択に貢献)。その上の尾根を辿る。獣道らしきを枝折りして上へ進む。途中より林業境界道を辿り、急坂を一気に登り、1P(7:30)。徐々に尾根藪が濃くなり、下道不明なところ増える。それでも、晴れてきて、視界の利く小笹藪を掻き分け2P(9:20)。尾根沿いの先に山頂らしきが見える。行けそうな気持ちで、尾根進むが藪に右往左往し進み、思うほどに進まず、もどかしくなり、体力の消耗も進む。何とか直下の笹原斜面に辿りつく。遠くからは歩き易いと思ったが、背丈以上の笹原で、手で掻き分け登るも、エネルギー切れで尾根手前で一休み。ずっと虻に追い掛け回され、ここでも落ち着けず、何匹が潰してきたが、すばしっこく叩いたら消える忍者の如くで手に負えず。取りあえず、エネルギー補給し、再び笹掻き分け進むと稜線尾根。熊らしきが掻き分けた痕跡位しかない。急坂を笹掻き分け進むと念願の日照岳山頂(11:35)。二等三角点。ダム湖、山々の眺めあり、晴れ。平坦な山頂。来た道辿り下山。笹原を下り藪尾根歩くと黒雲が目の前で、間もなく土砂降りの雨(15分間)で、雨具付けるもずぶ濡れ。すぐ止んだ雨上がりの尾根を進み、強い日差しの中2Pに戻る。雨が嘘のように山頂の山並みが見える。ただ、下界は、黒雲が湧いている。藪尾根をこんな藪をよく登ってきたなと感心しながら、苦闘し、ゆっくり下る。林業境界道の急坂までは何とか辿れたが、再びの大雨(15:10~15:50)に会い、来た枝折道の確認が不能となり、数度の同じところ探し回るが、来たルート不明。已む無く、尾根らしきと獣道らしきと沢沿いを下へ下へと取りあえず下ってゆく。大雨は止まず、ずぶ濡れになりながら、鉄塔連絡路に出会うことを信じて谷を下る。しばらく下り何とか、連絡路に出会った。かなり

北方向へ下った模様。南へ連絡路進むと第三鉄塔に戻り安堵。尾根を下り、第一鉄塔より林業境界路経て急坂下り、国道フェンス。北に辿ると鉄塔道に入り口のサカイ谷橋に出て、すぐ近くの駐車地に無事戻る。・番外登山「100周年記念登山」中崎尾根ルート(新穂高Pより槍ヶ岳山荘)。4:40~12:10(7:30)。わさび平小屋で、表の概略図のルートに×印あり、ルートの状況教えてもらう。尾根で3ヶ所崩壊しており、山行は勧められない。自己責任で歩いてもらうしかないとのこと。鏡平への道を進むと、しっかりした橋あり(通行止め表示)、渡って林道進むと登山口(通行止め:4ヶ所崩壊しており、登山は勧められない旨の表示)。しっかりした登山道を進み、急坂を喘ぎつつも登り、中崎尾根。天候晴れで、中崎山への案内表示も・道もあり。尾根道を北へ淡々と進むと、槍平からの登山者に会い挨拶。特に崩壊等の話なし。少しいくと2度目の奥丸山山頂。槍等見え、好天で気持ち良い。一息入れ、稜線を辿る。途中、若者が一人下山してきて挨拶。展望良いところあるとの明るい声。稜線を進み、展望・花等楽しむ(崩壊カ所3ヶ所確認:注意して通過)。時間は予想以上にかかる。疲れを道沿いの高山植物に癒され、何とか千丈乗越(10:55:約束より0:55遅れ)。後は、西鎌ルートをゆっくり登り槍ヶ岳山荘(12:10)。100周年の各ルートのメンバーと2度槍ヶ岳へしんがりて登り、小屋泊まり。翌日(8/1)未明に若手と共に下る。奥穂より下山の一人の若い女性と会い、山話しながら下る。途中、逸れた、女性の山仲間と合流でき、4人で新穂高まで山話しながら下った(4:40~10:10)。

・8/1(月)晴れ 岐阜北2山「船山」12:50~13:00(0:10)。車で山頂。遊歩道脇に二等三角点。電波等の立つ平坦な山頂。

「高屹山」13:50~14:55(1:05)砂利道林道終点の登山口より時計回りに周回。晴れ、林道、沢沿いの道、植林地経て方位盤のある広場、展望楽しむ、遠くで雷の音。急いでさらに進むと高屹山山頂。三角点あり。下りも駆けるように急ぎ足で、登山口に戻る。夕方100周年記念登山の懇親会に参加。翌8/2(火)岐阜北の火山を偵察したが、山頂確認できず、下山(6:50~9:20(2:50)):ルートミスを後で確認。準備不足。

新日本山岳誌以外編

・8/6(土)北アルプス2山(南真砂岳:百高山、湯股岳)晴れ 10:25~23:10(12:45)遅いスタートのため、七倉よりタクシーで高瀬ダムまで入り長距離を往復。隧道・林道を歩いて湯俣温泉登山口。橋等整備された道をダム湖・川に沿って進む。ブル拡幅道等経て、吊り橋・丸太橋渡り、晴嵐荘(12:50)。小屋の方にルート概要等教えてもらうが、通常では、明るいうちの往復は無理。熊も出るので野営厳しいの言葉。取り敢えず、進むしかない。岩等急坂経て、トウヒ・シラビソ・笹帯の尾根を進む。続々下山する人に会い、これからと心配がられる。淡々と登り、木かげ処で一息。樹林帯で木陰で陽が当たらず、涼しく快調に上り、湯股岳山頂。三角点あり、展望楽しむ。シラビソ帯を下り、鞍部で荷物を少しデポし、急ぎ足で急坂尾根進む。ハイマツ帯で陽光当たるも日差しはさほど強くなく、階段等経て、(南真砂岳)山頂(16:30)。晴れ、槍、硫黄、大天井、さらに燕、餓鬼、唐沢岳、北鎌尾根、西鎌尾根、水晶、真砂岳等北アルプスの大展望を一人ゆっくり楽しむ。時間がないため、急ぎ足で来たルートに戻る。鞍部でデポ荷物回収し、湯股岳経て後は一気に下る。木カゲ処で休憩し、さらに加速して下る。沢が見えるがかなり下らなければと焦りつつも、まだ明るい急ぎ足で下る。岩々の急坂・ガレバ等は慎重に下り、薄暮に晴嵐荘に到着(19:10)。夕食の宴会等で賑やかなので寄らずに、橋を2つ渡り、蚊・虫対応で半ズボンから長ズボンに履き替え、ライトをつけ、下山。途中、ブル跡で道迷いあったが、ルートに戻り、表示板確認し、橋等渡り、湯俣温泉登山口(林道終点)に戻り安堵。一息入れ、黙々と林道歩き。こんなに登りがあるとは、クマの気配もあり、疲れた体にむち打ちつつ、何とか高瀬ダム着(22:00)。来る時は、タクシーで楽ちんであったが、アスファルトの下り道5kmの歩き。この時刻に登りの人3人に会う。ライトに蝶・虫が寄り付き、苦戦。トンネルの中等ただ只管歩き、七倉口に戻る(23:10)。もうクタクタで、すぐ車の中で、眠りにつく。翌日は、歩行が困難なため、休み。これで、中央

アルプスに次ぎ、北アルプスの主なところは踏破。次は、南アルプス南部の深い山々なのだが・・・道崩壊等でアクセスがさらに困難さ倍増？

8/11(木)山の日 番外編 大朝日岳周回。4:40～15:20(10:40)朝日鉱泉口より鳥原山經由小朝日岳・避難小屋・大朝日岳(11:15)。下りは中ツル尾根を下山。6月下旬登山口で天候不順のため、断念し再チャレンジ。一度行きたかったと云う会社の同僚と歩く。天候に恵まれ・朝日連峰の山並み、月山・鳥海山等の展望・溪流・ブナ林を楽しむ。日帰りで一番近い古寺鉱泉ルートからの登山者多し。

・8/13,14 能登遠征5山。

・8/13(土)晴れ「七尾城山」15:55～16:25(0:30)展望台駐車場まで車で行きすぐ城山山頂。ブロックの中に三角点あり。展望台より七尾湾・市街の展望楽しむ。

「伊掛山」20:00～20:25(0:25)西側登山口よりライト付けすぐ伊掛山山頂。二等三角点、遊歩道脇の平坦な山頂で、月明かりを楽しみ戻る。林道探し・海側からのアプローチ(伊影山神社・大銀杏の木の先のルート不明で戻る)等3時間道探しやっとならぬ。

・8/14(日)晴れ 能登3山「四村塚山」4:45～5:15(0:30)能登島に渡り、前日夜探し回ったが、山頂不明。明るくなり、再度トライ。昨夜から電波塔脇に駐車。近辺を探し回り、窪地を経て先の平坦地を歩いていると二等三角点の四村塚山山頂。表示札もあり。林舗道への道を進むと昨日見た鎖付きゲート先の電波塔のすぐ奥であったことが分かった。

「虫ヶ峰」6:05～7:40(1:35)地元の人にルートを教えてもらい、林道電気策ゲート口より往復。林道を進むと使われなくなって久しいためか、イノシシの掘り返し、倒木、草藪等経て、背丈以上の草藪かき分け進むと右側へ峨山道案内。しっかりした道を進むと間もなく神社で虫ヶ峰山頂(6:55)。表示板あり。変な音の正体が、風力発電と判明。発電側にしっかりした道を進むとすぐ立派な舗道に出てがっかり。こんな簡単な道もあったと唖然としたが、仕方なく、来たルートを淡々と戻る。

「高爪山」8:25～9:15(0:50)林道四ツ角より往復。林道進むと登山口。晴れて暑くなってきたが、樹林の中、急坂上ると高爪山(能登富士)山頂。壊れかけた神社あり。樹林の中で展望今一つ。下りは、新しくできた林道を利用し、若干ショートカットして暑さの中戻る。

・次の河内岳は登山口は分かったが、藪山のため、闇雲に尾根を目指し上り、間もなく尾根に辿りついたが、所在不明で沢に下り、危うく道迷い。止む無く尾根を辿り、歩いたルートらしき経て、登山口に無事戻る。暑さで体力をかなり消耗(10:05～13:05(3:00))。再度トライも横トラバースの道が、草藪化しルート不明で断念。この時期は無理か？ 最初歩いた尾根はかなり北側の稜線だったことを確認。いつか再チャレンジ。

8/20(土)5山、21(日)2山 石川能登半島7山晴れ

・8/20「石動山」11:10～11:55(0:45)展望台下より遊歩道往復。山頂は、神社・水準点あり。富山の海の眺め良い。展望台に寄って戻る。

・「柵形山」12:30～13:00(0:30)荒山城址登山口より往復。あまり歩かれていないのか、草藪、猪の掘り起こし道を登り、平坦な柵形山山頂。富山・七尾湾の眺め良い。

・「碁石ヶ峰」13:35～13:55(0:20)広い直下の駐車場より往復。二等三角点、七尾、氷見、山々の眺め楽しむ。

・「眉丈山」15:40～16:05(0:25)トンネル手前の道を進み、峠の林舗道右折しピークを探し回る。徳丸四等三角点等歩いたが、ピーク不明。止む無く、雨の宮古墳群のほうへ進むとピンクテープ発見。辿ると1号古墳。ピークに登ると三角点あり、山頂を確認。手入れされている古墳群で展望を楽しみ、2号古墳等散策し戻る。

・「臼ガ峰」16:10~17:50(1:40)石川側遊歩道口より往復。広い遊歩道だが、日の当たらない湿地あり、蚊に刺されつつ進むと親鸞上人の銅像が標高のピーク。富山側の臼ガ峰園地散策(車で山頂まで来れる)し、展望台で氷見・富山の展望楽しみ、戻る。銅像の直下に表示板を確認。

・8/21「赤蔵山」5:15~6:20(1:05)ピーク探しに小藪を幾度も歩き回る。終いに、林道ピークを確認しつつ歩くとピンクテープ確認(5:50)。笹の藪(下は旧道)を掻き分け進むもピークを過ぎ、旧作業小屋。止む無く、ピークに戻り、真藪の中に三角点を確認、赤蔵山山頂。辺りにテープあるが、行きは分からず。樹林・草藪の中の山頂で視界今一つ。戻るは、すぐ林道に出て(6:15)戻る。

・「河内岳」7:25~10:35(3:10)前回のリベンジ。民家の前の道を辿り、横移動。倒木の手前を上に登るとキューイの木他草藪。止む無く戻り小沢を地図の沢と勘違いし、登り、尾根に取り付き獣道を上へ。笹を分けて進むと前回と同じ稜線尾根。止む無く同じ稜線を確認しつつ進む。前回諦め下った水道・境界標柱の鞍部より、沢へ下らず、稜線の真藪をゆっくり掻き分け、登る。さらに植林地の藪坂を越えると藪ない稜線。高みへと進むと広い平坦地の植林地。ピーク分からず、先へ先へと進む。もう進むのは、いいかなと諦めかけたところで先にピンクテープ発見。テープを辿り、進むと作業道の上の民有林境界の表示。現在地も不明なため、戻ろうかとしたが、とりあえず、先へとテープ等辿り、平坦な刈り払いされた道を進むと、何と、河内岳山頂の表示板ある山頂(9:40)。一等三角点、広く刈り払いされているが、樹林の中で視界利かず。ゆっくり一息入れ、ピンクテープを辿り下山開始(9:50)。テープ、道らしきがしつかりあり。登山道標柱より沢沿いに下り、横へのトラバース道。倒木・水源施設・池の間違った地点(10:25)を経て無事戻る。獣道尾根・稜線尾根歩きと旧道・テープ付きの道歩き違いを実感。下りは、1時間もかからず、戻る。これで、能登半島の山歩きは無事終了。

8/26・29 休みで南アルプスをついに踏破。

・8/26(金)南アルプス3山「兎岳」山頂 16:40「中盛丸山」同 18:00「大沢岳」同 18:35 6:50~21:15(14:25)曇り一時小雨、長野側林道崩壊通行止めのため、静岡側畑薙ダム、沼平ゲートより入山。林道を少し歩いていると井川観光のマイクロバスが停車してくれて乗車。茶臼口までと思ったようだが、お願いして聖岳登山口まで乗車(但し聖平、茶臼の小屋泊り要と釘をさされた)。7:50 着入山。トラバース気味に沢沿いを進み、聖平小屋 12:25。大沢岳までの時間等教えてもらう。急坂を淡々と登り、2度目の聖岳 14:50。一息入れ、兎方面へ尾根を下って行く。道を間違えた女性に挨拶し、鞍部まで下り、ガレバ、片側崖の尾根を登り返し進むと兎岳避難小屋 16:25。先客2名に挨拶し、これから大沢岳まで行き遅くなる旨伝え、驚かれる。少し坂を登ると兎岳山頂。雲の中、微風、視界なし。急坂をドンドン下って行き、鞍部より3ピーク目が(小兎岳)山頂。聖岳の眺め良い。後は尾根伝いにアップダウン繰り返し進み西側より急坂登ると中盛丸山山頂。富士山見え、陽光一瞬で雲の中。風あり。下って、進むと百間洞分岐。直進し幾つかのピーク越え進むと大きな岩山。急坂登り進むと大沢岳山頂。三角点あり、2ピークある山。赤石・聖からの連なりの山々の眺め良い。薄暮ですぐ戻る。来た道を慎重に確認し、中盛丸山よりライト点け慎重に下り、登る。小兎経て水場で方向間違い右往左往。磁石で方向確認し、尾根を進む。兎岳手前の鞍部より長い急坂 k を喘ぎつつ登り、何とか兎岳山頂。下って無事兎岳避難小屋に戻り 21:15 すぐ就寝。

・8/27(土)南ア1山「仁田岳」山頂 13:45 曇り、一時小雨 4:30~15:20(10:50)未明に小屋泊まりの2人に挨拶し出発。鞍部に下ると明るくなり、後ろの兎岳の並びの山々のモルゲンロード楽しみ、淡々と登り、聖岳。後に出た2人に追い付かれ挨拶。すぐ一気に下る。途中多くの登山者に会い、聖平小屋分岐で食事。同宿した1人の若者は聖平小屋へ。少し年上のもう一人の人にも追いつかれる。昨日の無茶歩きでの体力消耗等で体調も今一つ。追いつかれた人と一緒に山話等しながら、(南岳)2度目の上河内岳経て茶臼分岐で別れ、荷物デポし1人茶臼へ。雨が小雨よりやや強くなり、濡れながら茶臼岳山頂。荷物回収し茶臼

小屋に濡れた状態で到着 11:20。受付済ませ、荷物をサブザックに入れ、ゆっくり食事し、再度出発 12:25。分岐より、再度茶臼岳を経て光方面へ、池・木道等経て希望峰・仁田岳分岐 13:25。ハイマツにズボンを濡らしながら、幾つかのピーク越えて仁田岳山頂。平らな雲の中の山頂で、視界なし。来たルートに戻るも途中雨降り。茶臼小屋で夜・朝に大飯食いして少し体力回復。夕方より雨風強くなる。

○8/28(日)曇り一時雨 南ア2山「イザルケ岳」山頂 8:30「加加森山」同 11:05 5:20~17:00(11:40)伝説のハイカー編 茶臼小屋でお腹一杯の朝食後、下山予定だったが、小屋の天気情報では、今日1日大丈夫な様子。急遽、荷物(寝袋・着替え)を預け、出発。茶臼岳・希望峰経て進むと先行のパーティーに追い付き挨拶。淡々と進み、易老岳山頂。下って、岩々の道を登り返し静高平。水枯れ。なだらかな坂登り、湿原入り口を左へ進み、イザルケ岳山頂。平坦な山頂で陽光あるも、雲で視界なし。本道に戻り、進むと光岳小屋。主人に挨拶し加加森山へのルート情報を教えてもらう。2度目の光岳山頂を経て下って行き、鞍部より盛り返し、幾つかのピークを経て、池口岳方面への曲がり角を直進し念願の加加森山山頂。シラビソの樹林帯の中の小ピークの山頂。二等三角点。遂に苦節数年かけた奥深い南アルプスが踏破でき大満足。戻りは、山小屋の主人の忠告で来る時に注意深く、確認しつつ、しっかりした道を辿る。、迷いやすい道を再確認しつつ、苦もなく、テカリ石・光岳経て、光小屋に戻り(13:20)主人にお礼述べる。同小屋で昨日同宿した元気な女性3人組に会い挨拶。とりあえず、来たルートを黙々と歩き易老岳。後は登り気味に尾根を進む。小雨で上の雨具付けたが、すぐ止む。茶臼岳で朝追い抜いたパーティに会い、よく頑張ったと感心しつつ、茶臼小屋に戻る。畑薙登山口を下る元気がなく夕食を食べてやや元気回復。天候は台風10号の影響か夜通し強風雨。・8/29(月)4:00~7:00(3:00)茶臼小屋を暗いうちに出て、樺段、横窪沢小屋(宿泊者多し)ウソッコ小屋、ヤレヤレ峠、畑薙大吊橋経て、バス停。入山時乗せてくれた、井川観光のバスとすれ違い感謝込め、挨拶して沼平ゲートの駐車地に戻る。

○これで、北・中央・南アルプスを踏破。ついでに「日本百高山:富士山・北岳・奥穂高~鋸山まで標高の高い順で100山」も今回で踏破。二重に目出度いこととなった。今回も無茶したが、10月3連休の例会の下準備歩きにもなり、頑張り、疲れ切った体に感謝。

新日本山岳誌以外 ふくしま百山紀行編1山

(観音山)8:50~14:05(5:15)観音沼森林公園奥の鳥居より、道なき、残雪期に登る藪山を往復。土石流で通行止め・水道施設の下にある鳥居より入山。尾根へ尾根へといつもの長靴・半ズボンで行けるところまでの偵察感覚で進む。尾根の藪が深くなり、長ズボンに履き替えて、尾根の獣道進む。背丈以上の笹藪を一歩ずつ、腕で笹をかき分け進むと獣の声。大声を出し取り合えず上へと進む。やぶ薄くなり、尾根に出ると、本道と思えるほどの道。ルンルンで進む。しかしまた藪・檜等が尾根の進路を阻む。潜ったり、上ったりしながら進む。夏場のルートは、なし(テープもなし)。獣道のみのように。やぶの薄いところを選び進み、別尾根と合流し、湿地2カ所経て進むと平坦だが、檜が占領する観音山山頂(12:00)。北に大白森見える。天候曇り。すぐ下山へ。来たルートを確認しつつ下るが、途中、笹の大藪手前で道不明に。止む無く左の沢沿いを下り、沢に出て下る。大きなかなり高さのある断崖に出て止む無く右へ高巻く。後は、トラバース気味に沢上を笹をかき分け降りてゆく。笹深くなると下に下り、またトラバース気味に下る。同じ繰り返しで徐々に今度を下げ、なだらかになり沢もなくなり、獣道のトラバース道を淡々と進む。ゆるやかになっても獣道らしきと藪薄いところを延々と一気に下る。祠があり、拝もうとしたらそこは林舗道。少し登ると鳥居のある駐車地で無事戻る。天候穏やかで助かった。

9/10(土)東京都 伊豆七島2山

・「宮塚山:利島」6:30~9:10(2:40)大型フェリー2等椅子席はあまり眠れず。利島着後乗り継ぎの高速フ

フェリーを確認し9:30には戻るよう促され、急ぎ足で出発。急坂を上り集落へ。忘れたカメラの代わりにインスタントカメラを商店で何とか、わけてもらい、あとは時間を気にしてショートカットを狙う。神社を拝み、石畳の道を整備された椿畑を眺めながら進み浄水場。上の島一周道路の手前の階段進み、椿畑、あとは旧道小藪道を右斜めに進み、上の林道に出て少し安堵。林道を東へ進むが、上への登り口見つからず、止む無く林道を横へ横へと進み、本道出合い。園地を経て、東口登山口手前を上り、本道に合流。階段の急坂を大汗かきつつ、一気に登り、南口登山道と合流し、そのまま上へ。まもなく宮塚山山頂。2等三角点、笹・樹木の中の平らな山頂で視界なし。時間なく急ぎ、合流点に戻り、展望台へ。展望台から山頂、港・海の眺め楽しむ。合流点経て東口登山口へ滑る階段を注意し降りる。後は、来たルートを着実に戻る。林道から下へは、カーゴ道を辿り、難なく周回道路に出て、浄水場・石畳・神社でお礼。急坂の集落抜けて港へ。待合所へは意外と早く戻る。高速船で神津島へ。

・「天上山:神津島」11:00~12:55(1:55)タクシーはかきいれ時で電話で登山口までを断られ、神津島の港で帰りの便の空き状況確認し、高速船は13:15まで手続き要の旨確認。荷物はサブザック、短パン、ランニングシューズの軽装で急ぎ出発。集落抜け、白島登山口目指急坂を一気に上る。カラー舗装で道不明になり、直登進むが標示なく、地元の人に聞かぬが。。止む無くカラー舗装に戻り、その道をドンドン進む。標示のあった、すぐの白島口とは違う様子。急ぎつつ、淡々と進む。道路脇に黒島登山口標示。ここから入山、帰りの時間が心配され、合目標示のある階段、石道を休めず、一気に登る。途中何組のも登山者に道を譲られて挨拶し、前へ、上へと突き進む。合目標示の終わりまで休まず、大汗かき、タオルはぐっしょり、半袖シャツも暑さ等でぐっしょり。黒島展望地へ寄りたいが、小藪のようで、時間なく断念し、急ぎ足で進む。霧で視界乏しく、砂漠は、一部を歩いたのみで、最高点へのルート案内を急ぐ。最高点手前で若者を強引に抜き去り、最高点の天上山山頂(12:10)。三角点あるも、視界は白一色。一息入れ若者に挨拶し下りへ。白島登山口を目指す。登りの数組に挨拶し、あとは一気に合目標示を確認しつつ、速足で下ってゆく。軽身、ジョグシューズに助けられ、あつと云う間に5合目駐車場。さらに集落へ向け加速、樹林の中の湿った階段等の道を淡々と駆け降り、白島登山口(12:40)。舗道を下るとあと少しで登山口のところを引き返したことを確認。カラー舗装合流点を経て、来た集落道をジョグシューズで一気に掛け下る。来たとき見た工事中2か所を通り、港が見え安堵。少し余裕で休憩・待合い施設に戻る(12:55)。タオル・顔を洗い乗船手続きすませ、高速フェリーで帰路へ。こんな駆け足で、大型客船・高速フェリー活用の急ぎ山歩き、それも初めての山で、2島2山の日帰りをする人は。。でも、船旅・山歩き・集落巡り・海を存分に楽しんだ。

・これで関東百名山踏破。4000名山での関東地区の残りは三宅島雄山(立入禁止)伊豆七島のみ。

9/17(土)長野西・岐阜東1山「鎌ヶ峰」藪山、曇り 8:25~14:15(5:50)野麦峠・お助け小屋より往復。遊歩道歩き、悲しい碑を拝み、尾根に戻り、林道出合い。鉄塔を目安に進み、鉄塔 R30 へ巡視路を辿り、尾根へ。鉄塔より尾根伝いに登ると、笹の刈り払いは少し上までで、後は、笹藪等の尾根歩き。高い笹の獣等の道らしきを辿り、笹をかき分け、急坂登ると塩蔵三角点。一息入れ、同様な尾根のアップダウンを繰り返す。笹のない岩・苔の尾根は歩き易いがわずか。藪のない尾根で一息入れ、進むと 1P。標高は、山頂と同じ位で、山頂かと思ったが先が続く。坂を下りて行くとそこは、深い笹原。方向が見え、笹も細いため、かき分け、踏んずけて進む。間もなく、深い笹原の奥に平坦な鎌ヶ峰山頂到着。二等三角点、案内表示板2枚。まばらな樹木・笹原の中の山頂(11:40)。雲で、視界は山裾が見える程度。一息入れ、来たルートを確認しつつ戻る。一本尾根で迷うことなく、こんな曇りの天候の時は助る。藪道の長さにやや疲労を感じながらも、淡々と下る。塩蔵三角点からの急坂の下りは、道らしきを慎重に確認し、刈払いに出て安堵。後は軽快に下り、意外と早く下山。小屋で食事後、移動・偵察で1日目終了。

・9/18(日)岐阜3山。昨晚からの雨が続く。偵察気分できりあえず、現地登山口へ。

「八尾山」雨 7:00~9:45(2:45)道の駅真瀬美輝の里近くの柿坂峠へ獣除けゲートを開け閉めして車で峠へ。雨続くが、雨具・ピン付き長靴スタイルで、鉄塔巡視路を登山口表示板確認し山入り。巡視路を辿り、稜線。後は、鉄塔巡りしながら、尾根を進む。三角点確認したが、山名なし。雨・風が強まったり・弱くなったりの天候の中、アップダウン繰り返す。鉄塔路と別れたところから、急坂登ると八尾山山頂。樹林の中の平坦な山頂で、西側開けているが視界なし。二等三角点。奥の岩の祠・石の表示を確認し来た道戻る。とりあえず次の偵察へ。

・「仏ヶ尾山」雨 11:30~14:20(2:50)車で北上し、下呂と反対側の西側よりトライ。道を探し、堀之内の室島林道を獣除けゲートを開閉し車で行けるところまでと進む。落石を除け、ピークまで何とか進むが、先は落石で進めず、ピークより安全な下に駐車し出発。落石を越えて進むとすぐ林道終点。尾根に取りつく。獣道等あるも、境界表示杭あり、それを辿り、急坂を登る。植林地・広葉樹境界を進み、稜線(12:00)。南へ進むが、下る一方。四等三角点まで行き、先に高い山なく、元の合流点に引き返す(12:45)。北側へ尾根を境界標を辿る。しばらく行くと作業道と急坂。境界標に沿って、ズンズン登ってゆく。緩やかになり、神社(白山・御嶽)。こちらが下山道の表示と立派な道あり。山頂はさらに先。下り、急坂を登り、平坦地の奥に仏ヶ尾山山頂(13:20)。二等三角点。樹林の中、東側切り開きあるも曇りで視界なし。御嶽、乗鞍、白山の表示板あるも残念。一息入れ、来たルートを急坂は滑らないよう慎重に下る。枝尾根も境界標確認しつつ、ゆっくり下り、無事林道終点に出る。やや雨が小降りで助かった。

・「火山」雨 15:45~17:20(1:35)8月始め、間違えたりベンジ。前回と同じ駐車場。3本の道の真ん中の林道を遅くなったため、急ぎ足で進む。終点より山入り。テープ等頼りに右へとトラバース気味に進み、尾根に出る。道らしき探し進むも、笹藪が塞がる。やや太い笹の獣道らしきを辿り上へ。稜線に出ても笹藪のまま。止む無く、頂上方向へ、帰りのため、素手で笹竹を折り、進む。雨が強くなる中、上へ上へと笹竹かき分け、折り進むと立派な登山道に出る。道を上へ進むと間もなく念願の火山山頂。樹林、笹の中の平坦な山頂(16:30)。笹折りで、左手小指より出血。止まらないが、大雨で手帳への記録も濡れながら、止血も。出血は指で抑えた止まったが、左手は、心臓より上に挙げてすぐ下山へ。笹竹を折ったところより笹竹藪入り。折りを確認しながら下る。途中间違えて立派な道に出る。尾根の少し奥に立派な登山道を確認しがっかり。枝折確認し尾根下る。途中早く谷に降り、道失うも沢脇の藪をトラバースし道に出て後は、大雨でぬれた地面の滑りに注意し下る。林道終点に出て安堵。林道の沢等の眺めを楽しみながら戻る。今日は3山連続の雨中登山で、明日も雨模様のため、今回はここまで。

9/22(木)~9/25(日)休暇取り4連休だが、秋の長雨でやや挫ける。

・9/22 富山南1山「水無山」雨 16:20~20:30(4:10)天気は1日雨で、時間帯は、遅いながら(県道R34は富山・岐阜側共に崩壊で通行止め、岐阜側はこの山の帰路に確認したら、ゲートあり、全く通行不可。金剛堂山登山口の栃谷口・東俣口へのダート道経てさらに少し掘れた砂利道下り、R34に辿り着き、舗道を西へ下り、水無神社先の橋を渡り、旧水無自然公園に駐車。)ダートな林道走行は普通車では無理と判断し、偵察気分小雨の中、長い林道(片道8km)歩き開始。黙々と歩き続けるも、時間だけが過ぎゆく。小ピークの旧鎖ゲートから平坦ながら林道に草が目立つ。未だか未だかと進むうち薄暮。何とか左に登山口の標柱確認(18:00)。そのまま一気に坂道を駆け上り遂に水無山山頂(18:10)。二等三角点、広場で西側切り開きあるも視界なく、大雨。急ぎ記録しすぐ下山へ。林道に戻る(18:35)も、標柱が確認できず、進む方向が正しいか判断できない。右が山側で大丈夫と思いつつ進むと、見覚えの旧鎖ゲート。後は淡々と雨中を時折大雨だなと感じながら進み、無事戻る。

・9/23(金)岐阜北1山「六郎洞山」11:05~13:50(2:45)雨 午前中雨の天気予報で(鈴蘭高原スキー場はゲートで立ち入り禁止のため、先へ進み左へ入り)西洞林道の三差路に駐車し、作業道から往復。藪山

で表示何もなく、ネットの写真と見比べ入口と判断。作業道を進むがすぐ笹に覆われた道となり、かき分け、かき分け進む。直角に左に曲がり、尾根筋を進むと、笹のない坂もあり、喜び進むがすぐ笹に占領された作業道。また同じでかき分け上ってゆく。急坂の刈り払いされた直登の道を一気に登り稜線尾根。すぐ近くに凶根三角点。付近が最高点で平坦な笹藪を雨に降られながら歩き回るが、境界標のみ。止む無く帰りかけ、ふと尾根が下る西側の先へ足を向ける。尾根に踏み跡・獣道らしきあり、少し辿ってみると赤テープあり、山頂の方向は、西側だったことに気づき、本格的な笹藪をかき分け進む。2P経ても何なく、尾根の藪をひたすら進む。藪道らしき尾根を進み、まだ先があると思ったところで道らしきを辿ると何と念願の六郎洞山山頂(12:45)。二等三角点、平坦な灌木・笹藪の中の山頂。小雨、視界なし。すぐ下山。境界標・テープに助けられ、なんとか刈り払いされた尾根に戻り安堵。後は、来た道を淡々と下る。本格藪とは知らずに、作業道・刈り払い、目印テープ・境界標に助けられた山歩き。その後、次の藪山の林道を下見。

・岐阜北2山「若栃山」曇り 5:20~10:50(5:30)昨日走った林道に大きな落石あり、通行できず、沢・橋・林道分岐に駐車し林道歩きし、昨日下午見駐車した唐谷林道ゲート(5:35)。後は只管、林道歩きで、途中伐採地でショートカット。伐採広場経て西へ西へと林道は続き南へと方向が変わり、しばらく進むと中部電力の反射板への案内表示(6:35)。山入りし、つづら折れの作業道を登ってゆく。途中木から熊が下り、上へと向かう。大声上げたが後は音・気配なし。登り進むと反射板。展望あり、一息入れ進むと1P。稜線尾根進み、2Pで大きな岩に登り、遠望し山と方向を確認。幾つかピーク越え、境界分岐をさらに南へ進むとピークを過ぎて下りに。戻ると三角点、標識が3つ掲げられた若栃山山頂(8:25)。尾根筋の狭い山頂で、樹林の中、視界今一つだが、陽光あり。付近に笹が被さる小藪をかき分け下山。分岐で右へと進む。急坂下り、途中道が怪しいところはあったが、テープ・道に助けられ、沢沿いに下る。最後は、沢を渡り、少し下ると入山口より上の林道に戻り(9:25)一安心。入山口まで戻り、あとは只管林道を下り、途中ショートカットし、意外と早めに唐谷林道ゲート(10:30)。美しい溪流の眺めを楽しみながら駐車地に戻る。大きな落石は、既に撤去され、林道は通行可能となっていた(大きな自走式重機で簡単に沢側へ押しやられ、道が通常どおりに復元された)。藪山のはずが外れで助かった。

「築谷山」14:00~16:05(2:05) 県道 R36 より林舗道を走り、倒木・落石を除きながら車を進め、林道終点より、ブナの木ルートで右回り。小笹の谷・坂を右へと進み尾根。樹林を楽しみながら、霧の中を淡々と登り、築谷山山頂。二等三角点、方位版ある広場だが、雲で視界なく残念。帰りは、南尾根ルートを右回りに下る。途中の樹林帯は見事。岩等で一部歩きにくかったが、軽快に下り登山口に戻る。曇りで途中雨パラつく。

・9/25(日)岐阜北1山「御前山」6:05~9:40(3:35)水洞登山口より往復。倒木・落石除きつつ、車を進め、林舗道終点より往復。ここ最近の雨続きで増水か、沢水に勢いがある。沢沿いの道を濡れた木橋は、慎重に歩き、登ってゆく。沢の音、滝を楽しみ進むと屏風岩。直立の巨岩塊を仰ぐ。さらに沢歩きを経て、笹の茂るつづら折れの道を刈り払いに助けられ登ってゆくと御前山山頂。一等三角点、久しぶりの晴れで、御嶽山(噴煙あり)等山々の展望楽しむ。ゆっくり食事するが、雨多かったせいか、小蜂が多い。来た道を淡々と下る。屏風岩過ぎて、10月の市民登山等のため整備に山に入る3人に会い、イイ山の旨伝え、挨拶。ほかに2人連れにも挨拶、沢・滝・緑を大いに楽しみ戻る。午後の天候不明なため、今回はここまで。

10/1、10/2 岐阜東2山 大気の状態不安定なため、偵察モード。

・10/1(土)「雨乞棚山」曇り小雨 16:10~18:25(2:15)午後雨は止み曇りの中、田瀬より車で林道入るも、国有林は途中ゲートで通行止め。分岐まで戻り、山の西側林舗道進み、ルート探し。山側(右側)砂利道林道はあるも、諦め、先の林舗道分岐より、右に入る。所々白い土嚢袋あり、舗道の穴塞ぎのもの。途中本道らしきを右へ曲がって進むと砂利道でダート。行けるところまで車で進むが岩段差の手前で諦め駐車し林道歩き。暫く行くと三叉路。右は、車・人通りの気配なし。左の林道を進んで行くと下り一方のため、戻る。三

又路近くで右への道あり進む。少し下り進むと伐採地で重機と切られた丸太が道塞ぐ。先へと林道進む。尾根末端に出て、先を偵察すると車の通った気配なく、戻り尾根末端より境界標、テープ等頼りに尾根進む。笹の藪深くなり、急坂は背丈以上の笹藪をかき分け登ると、境界フェンスに出て、藪のない立派な道に出て、トントン登ると林道に出る。後は周りを確認しながら、林道を進む。少しの草藪かき分け只管進むと林道終点。上へと急坂慎重に登ると道あり、少し進むと何と目指した雨乞棚山山頂。三角点・石の標識あり。樹林・笹の山頂(17:30)。曇りで視界なし。暗くなるのですぐ下る。来た林道を急ぎ足で進み、尾根分岐よりフェンス境界・深い笹藪を尾根らしきを淡々を下り、林道に出て一息(17:55)。後は、ライトをつけて三叉路経て小雨の中駐車地に戻る。林道をゆっくり車で下り、集落経てR257 付知峡大橋の信号に出た。

・10/2(日)「焼山」6:05~11:10(5:05)曇り後晴れ 7月に山の北側の急斜面の登り口、阿木林道ルートを探ったが、ルート確認できず、山の南側阿岳谷ルートにトライ。R418 より集落経て林道をゲートまで進み駐車し出発。林舗道歩きは、ダンプ交差余地番号を辿り林道進む。笠木分岐経て高度を上げ、大規模に整備された左側崖を眺めながら進むと採石場後で、重機3台あり。横目に林道を上に進むと焼山の案内表示見つけ安堵(7:40)。右へ道を進み、急坂の植林地を境界標・テープ等頼りに登る。笹の刈り払いされた立派な道を急坂経て 1P。さらに両脇笹の刈り払いされた道を登り進むと 2P。山頂かと思いきや先が続く。道に被さる笹を分け進むと道が続く。刈り払いされた笹原を経て間もなく念願の焼山山頂。三角点ある広い平坦な山頂(8:40)。樹木まばら。曇りの中、太陽顔出し。視界なし。食事し来た道をルンルンで下る。天候回復で気持ちも晴れ晴れ。旧碎石場林道の案内標示に戻る(9:35)。後は、夏の名残の日差しの中、左の溪流、右側山からの沢・湧き水等景観を楽しみながら戻る。ヤブ山と心して入ったが、しっかり刈り払いされた道(刈り払いに感謝)で助けられた。

10月3連休天候不順で、高山は厚い雲の中で大雨警報もあり、白山大縦走の例会は止む無く中止としました。

遠征ついでに里山から歩く。

・10/8(土)石川中部4山曇り時々雨「倉ヶ岳」10:15~10:40(0:25)林道終点駐車場よりため池を周回。急坂の岩登り経てすぐ倉ヶ岳山頂。二等三角点、展望良い平坦な山頂。林道に出て戻る。元KHC会員の時、岩登りの練習の山の記憶あり。

・「揚原山」12:00~12:55(0:55)東屋・峠より整備された尾根道を往復。二等三角点、平坦な山頂で、西・南の展望良く、山々、街、日本海の眺め楽しみ戻る。

・「遣水観音山」13:40~14:35(0:55)仏大寺霊水口より往復。合目表示辿り、お堂を経て平坦な遣水観音山山頂。欠けた三角点あり、展望台から手取川・街・海の眺め良い。展望地から白山は見えず。登る途中に家族連れに会う。登山口の霊水は、人気で、車で汲みに来る人絶えず。

「岩倉観音山」15:00~16:40(1:40)R360 神社口に駐車し登山口探し。バス停の向いより、岩倉城址への遊歩道歩き。登山道経て城跡の岩倉観音山山頂。最高点は奥の藪の中。散策し、岩倉観音を拝み戻る。

・10/9(日)雨のち曇り晴れ福井東2山

・「姥ヶ岳」8:50~11:50(3:00)整備された林舗道終点ゲート左奥の駐車場より往復。(未明まで大雨)。大野市で管理整備されている平家平を散策しながら進み、整備されたブナ林を経て、一旦下り、緩やかな登りが延々と続き、平坦な尾根道経て姥ヶ岳山頂。二等三角点、平らな広い山頂だが、雲で視界なく残念。帰路男性4人のパーティーに会い挨拶し、小雨もあり、淡々と下り戻る。

・「御伊勢山」14:25~16:50(2:25)藪山 R230 伊勢峠より往復。道のない山で、登り口不明で止む無く、境界標・テープのある崖より登り、境界標目印に急坂の尾根を進む。獣道らしきを進み、途中、笹藪・急坂等経て意外とすんなり御伊勢山山頂(15:50)。三角点あり、樹林の中の山頂だが、山々の展望あり。来た尾

根を辿り下る。小藪かき分け、ブナ等樹林楽しみ下ると途中より晴れて来て、心地良い山歩きとなった。境界標・獣道等あり、比較的歩き易かった。

・10/10(月)岐阜北1山「滝波山」晴れ ヤブ山 7:15~13:25(6:10)ダートな林道をゆっくり進み、堰堤の上で諦め、駐車して林道終点までと偵察歩き。林道ゲート口で沢筋のルートも考えたが、草藪深く断念し、林道終点までとトライ。植林地等経て林道を淡々と進む。途中伐採地に出て少し行くと、青・赤のテープある樹林帯と伐採地との境界で山入り。伐採地を茨等気にしながら高度を上げ、踊り場経て坂を登ると稜線の尾根。尾根伝いに小藪進み、また伐採地に出る。下の林道が見え下りに利用を意図。ここから本格藪を覚悟し尾根進む。獣等道らしき尾根を辿る。途中笹藪等をかき分け進み、手前のピークで一息。鞍部へ下り、小藪をかき分け進み 2Pの平坦地に滝波山山頂(10:45)を確認。三角点あり、周りは灌木で、鳥の風切り音、沢の音を、感じる。南・西の山々の展望楽しみ、来たルートを改めて道らしきを辿り、軽快に尾根を下る。2つ目の伐採地より林道へ急藪坂を慎重に下り、若い杉を確認しつつ、林道に出る。山入り地点を経て、林道を途中ショートカットして軽快に駐車地に戻る。天候良いが今回はここまで。

10/14 休めで3連休。好天で山歩きを満喫。

・10/14(金)岐阜北1山「高賀山」12:35~15:50(3:15)晴れ 高賀の森公園駐車場より往復。林道進み、間違いに気づき駐車場に戻り再出発。植林地・沢筋歩き、石段登りを経て岩屋。さらに植林地経て御坂峠。3人のパーティーに挨拶。峠の下に立派な林舗道あり、こちらも登山口があることを確認。どこから入るのか不明。尾根を淡々と進み高賀山山頂。一等三角点、360度のパノラマで晴天の中、御岳、白山、伊吹山等山々の眺めを大いに楽しむ。帰りは、御坂峠より峰稚児神社により、先は藪で進めないことを確認し来た道に戻る。

・10/15(土)福井東1山、岐阜北2山 晴れ

「平家岳」山頂 9:20「美濃平家岳」同 11:10 5:00~13:35(8:35)新深山トンネル西口鉄塔巡視路口より往復。北側の福井のダート林道口からのアプローチを避け、南の川浦溪谷先の林舗道で鉄塔巡視路の整備された快適な長い尾根ルートを歩く。暗い中ライトつけ、急坂登り、尾根になり、朝日拝む。あとは、鉄塔巡りの尾根歩きで、途中に笹の中に三角点を確認。さらに進むと美濃平家山が見え、登山口探すが不明でトラバース道で通過。次の鉄塔から一気に下り、鞍部経て作業小屋。さらに登り返し進むと福井ルートとの合流点尾根。左に折れ高度を上げてゆくと(井岸山:山名表示板あり)山頂。眺め楽しみ先へと尾根伝いになだらかな坂を経て奥まで進むと平家岳山頂。二等三角点、広い平らな山頂で、360度の大展望。白山、御岳、北アルプス、荒島等山々の眺めを楽しむ。来た道に戻り、美濃平家は、藪で、入り口不明なため、藪の薄いところ探し藪入り。枝折し、後ろを振り返りながら進む。道らしきもあり、まもなく美濃平家岳山頂。表示板あり、灌木と笹藪の中の平坦な山頂。下山は、踏み跡らしきを辿りすぐに道に出た。そこには赤い布目印があったが、直角の曲がり角で、道らしく見えず行くと見落としたよう。少し戻り藪入りした地点で二本杖を回収し、あとは、来た尾根巡視ルートを軽快に、木々を楽しみながら戻る。巡視路道に感謝。

・「蕪山」14:05~17:05(3:00)晴れ 21世紀の森公園より往復。駐車場に沢山の車あり人気の山。登るには遅く、名勝「株杉」まで多くのハイカーに会い挨拶。不思議な株杉を楽しみ、沢沿いの石段を上る。沢を幾つか横切り、遊歩道から登山道分岐。あとは、尾根伝いに高度上げてゆく。途中で親子5人に遭遇。歩み遅い様子で、ここで撤退して、日没は5時頃なのでそれまでに株杉のところまで下ることを勧める。こちらも、時間に余裕なく、距離表示を励みに急ぎ歩きで、一気に登り蕪山山頂。二等三角点、広場の平らな山頂で、以前、先週に登った山々と今回登った山々の眺め楽しむ。ゆっくり食事下山(16:00)。来たルートを確認しつつ、木々・沢を楽しみながら下山。株杉にはまだ明るい17時に到着。神社を拝むと林道から人の声。あの5人家族が無事戻って、お互いよかった旨声かけ安堵。駐車場に戻ると、車は、私と家族の車2

台だけであった。

・10/16(日)岐阜北1山「ドウの天井」5:25~9:40(4:15)晴れ 道の不明な山 林舗道大規模崩壊のため、通行できず、上大須ダム駐車場より往復。林舗道ゲートより進むと今年5月連休には、車で通れた道が、崖の大規模崩壊で道路を覆い尽してダム池に大量の土砂が流れ込んでいることに驚く。慎重に通過し、公園跡を経て進むと右側にゲートのある沢堰ダム。(倉地谷川表示の橋)フェンスあり入れず、フェンス左端に中部電力境界標の整備された急坂の尾根より取り付く。最初の急坂は、慎重に1歩1歩確認して登り、あとは、整備された急坂・整備道を境界標・テープ等頼りに軽快に登り進む。途中踊り場で一息入れ、さらに尾根を樹林等楽しみながら進むと管理舗道に出会う。テープ等位置を確認して、管理舗道歩き。淡々と進むと明神入口の旧駐車場を経て、ピークの平坦地。ここが旧遊歩道の入り口で案内表示はない。コンクリの階段を上り進むが、次第に植物・木が旧道に入り込んでいる。間もなくドウの天井山頂(7:45)。二等三角点、山名標示板あり、元遊歩道の名残りあり。晴天で御岳等山々の眺めを楽しむ。下りは来たルートを確認しつつ軽快に歩き、入口の倉地谷川橋に戻る。林舗道戻り、崖の大崩壊地手前よりかなりのサルの群れ。歩き進むと軽々と崖・フェンス等よじ登り高見へ移動しているのを眺めつつ駐車場に戻る。境界道整備に感謝。

今回は、久しぶりに、三日間共好天で長丁場・藪、道不明の山々等を歩いて大満足。

10/22(土)岐阜北1山 曇り「日永岳」13:05~16:25(3:20)遅い出発で林道の仲越(この先通行止め)の広場より往復。林道を歩いて工事現場を過ぎ、つづら折れ道を進むと地元の登山者2人。山情報を教えてもらう。淡々と林道を歩き終点より少し入ると登山口表示板(13:50)。急坂の植林地道を経てトラバース気味に進む。岩場等あり、稜線尾根。そこから西へ方向を換え、整備された階段等の急坂を上る。なだらかになり前峰。さらに尾根を進むと反射板(反射板整備の刈り払いに感謝)。反射板の奥が日永岳山頂(14:55)。三角点あり、平坦な岩と灌木の山頂。曇りで小雨パラつき視界なし。来た道を淡々と戻り、林道はショートカットし、沢の眺めを楽しみながら戻る。

・10/23(日)岐阜北2山晴れ「クラソ明神」5:00~7:30(2:30)八幡神社奥の駐車場より往復。暗い中ライト付け出発。すぐの橋を渡り、林道を終点まで進む。終点は林道の面影なし。方向不明で、左奥の沢を渡り、道らしきあり、そこを辿る。急坂を慎重に登ると植林地で、倒木等の小藪。藪の薄いところを探し、急坂を上へ上へと進み尾根。左へと尾根を進み、鞍部まで下り、植林地の急坂をゆっくり登る。笹が増えて踊り場で一息。後は背丈以上の笹の下の道を腰を低くし進むが、笹のかき分けに苦戦。眼鏡を何度も飛ばし、声も上げる。急坂経てなだらかな稜線を笹をかき分けして進み、日の出。まもなくクラソ明神山頂(6:30)。三角点あり、樹林・笹の中の平坦な山頂。遠くに山々が見える。来た道を確認しつつ戻る。尾根鞍部より杣道を辿り、沢沿いをトラバース気味に進む(かなりショートカット)。道不明あったが、来た道に出てすぐ沢を渡り、林道終点。登る時暗くて見えなかった林道を楽しみながら戻る。

・「舟伏山」7:55~12:55(5:00)林舗道終点より大周回。東ルートより伐採地の道を辿り、尾根。桜峠を経て広葉樹の森を楽しみながら、歩く。つづら折れの道を経て舟伏山山頂(9:25)。二等三角点、大広場で南側の眺めの良い山頂。これは楽勝と西回りに入る。南側は急坂のため、尾根の北よりを進む。表示もなくなり、下りは、道らしきがない。おかしいと認識しつつも、下へ下へと一気に下る。道不明となり左にヤブをトラバースし杣道。ピンクテープを辿り、林道に出て安堵。きれいな沢に魚影を探してルンルンで進む。林道分岐で右に進む。かなり進んで行きどまり(南への道)。戻り分岐近くでショートカットし沢を渡り、左の林道進む。後は、林道終点確認等複雑な林道に翻弄される。急坂とりつき尾根に出て、杣道辿ると元の林道に逆戻り。止む無く最初の林道終点手前の沢を詰め、途中右の尾根を目指す。ガレで進まず、体力も徐々に消耗。尾根に出て、境界標のある尾根道を舟伏が見える方向へと辿る。しばらく行くと、最初の伐採地斜面が見えて安堵。急な尾根を慎重に下り、旧キャンプ場。林道を下り西ルートの林道に出て戻る。道の大幅な間違い・

彷徨いで予定時間を2時間以上ロスし体力も消耗しつつも、無事も戻れて大満足。知らない道は、慎重に行動することの大事を再確認し、反省。

10/28 休暇取り岐阜遠征。

・10/28(金)岐阜北 1 山 雨「毘沙門岳」10:10~13:00(2:50) 白鳥高原 CC 手前駐車場より往復。ゴルフ場脇の林道入り、登山口。植林地を経て、笹等の覆う道をトラバース気味に進み、尾根(スキーリフト終点で機械音あり)。アップダウン繰り返し、2 つ目の登山口表示。急坂登り進むと毘沙門岳山頂。二等三角点、平らな広場の山頂で、雲で視界なし。来たルート戻る。雲の切れ間より、紅葉の山々楽しむ。雨が本降りとなり、淡々と戻る。

・10/29(土)晴れ岐阜北 4 山「烏帽子岳」明宝スキー場より往復。ゲレンデ左の林道(三井農林のきずなの森)のゲートより林道を進む。林道分岐を左に進み、いくつかの沢を渡渉し地図で確認しながら上る。草付きの林道となり、林道のピークで2 つの赤布確認し左に入る。少し進むと旧登山口の表示板。山入り。整備された急坂を進み、尾根分岐。左へ進み1 ピーク経て笹の覆う道を濡れながらかき分け進む。さらに1P 経て尾根を進むと(気良烏帽子岳)山頂。表示板あり、朝日・風あり。分岐に笹をかき分け戻り、尾根を進むと烏帽子岳山頂(8:35)。二等三角点。広場の平坦な山頂で一休み。先(オサンババ)へは笹藪(背丈以上)続き、今回は諦め。来た道を引き返す。ヤブ山と思いきや整備された山。但し表示なく苦戦。林道に戻り、周回しようと左の林道下る。天候回復し晴れ間が出て、絶好の山日和。紅葉・沢等楽しみながら戻る。スキー場では、トレラン大会の準備中であった。

・「大洞岳」12:25~14:10(1:45) 大月の森公園の林道を車で行けるところまで進み駐車し往復。林道を進み終点より山入り。沢沿いの道を進み、時折テープ等なく無案内となる。何とかルートを探して尾根に出る。急坂の尾根を淡々と登り、稜線。左に進み間もなく大洞山山頂(13:25)。一等三角点。晴れ、南東側の山々の眺め楽しみ、来たルートを尾根よりショートカットし戻る。

・「白草山」山頂 16:40、「三国山」同 17:30 15:30~18:45(3:15) 準伝説のハイカー編 15:30~18:45(3:15) 御厩野登山口より周回(登山口には三国山まで 3.1K、3 時間の表示)。急坂の植林地を脇目も振らず一目散に駆け上る。距離表示に励まされ、一気に登り稜線分岐。左へ進む。整備された道を淡々と進み、白草山山頂。夕日、曇り、風強い。平坦な広場の山頂。次へと稜線を戻り分岐。稜線の先は笹藪との話だが、結構整備・刈り払いされており、行けそう。暗くなる前にと尾根を駆け足で急ぐ。アップダウンを経て、下りは一気に下り鞍掛峠(17:15)。さらに刈り払いされた道(刈り払いに感謝)を上り返して進むと三国山山頂。三角点あり、薄暮でライト付けて下山。鞍掛峠に戻り(17:50)、後は、林道を急ぎ足で下る。遠くの街明かりに励まされながら、整備された林道を下り、ゲートを経て、白草山御厩野登山口駐車場へ戻る。

・10/30(日)岐阜北 2 山「寺田小屋山」6:25~8:55(2:30) 林道ゲート2 つ(白草山登山ルートと寺田小屋山ルート)。林舗道を進み、沢を渡ると横への道となる。右に折り返す進むと登山口表示で山入り。整備された植林地道を左斜めにドンドン登る。折り返して右に登ると植林地を離れて、岩ゴアの道。歩きにくいの上へ上へと進む。道を覆う笹等かき分け尾根へ。程なく御料局三角点。さらに笹道をかき分け進むと寺田小屋山山頂(7:45)。二等三角点、紅葉、朝日、山々の眺め楽しみ、来た道をショートカットし戻る。

・「湯ヶ峰」9:35~11:10(1:35) 乗政集落の林道を進み駐車。道不明。やむなく山と思いき方向へと、林道を戻り、作業道を上る。沢を経てしばらく進むが、山のピークと思われる西側へと青テープ目安に植林地の急坂にとりつく。急坂を一気に登り進むと、平坦地となり立派な林道に出る。左へ進むと、古いハイキングの案内板。山は反対方向と覚り、戻る。登り上がったところが、湯の平(湯壺)と確認。林道進むがはるか先に山が見えるだけ。何かおかしいと林道戻り、西側の丘に取り付く。獣道進むと尾根の奥で道に出会う。右に折れて道を進むと何と目指した湯ヶ峰山頂。嬉しくも、複雑な心境。三角点・小屋ある旧広場の山頂。下呂

の街並み等眺め楽しみ下山。道を尾根伝いに下り、林道に戻り、後は、急なガレ沢をショートカットで慎重に下り、作業道に出て戻る。今回はここまで。

11/4(金)休み取り4連休。岐阜北6山。

・11/3(木)晴れ2山「瓢ヶ岳」12:35～15:10(2:35)林舗道の下の方の駐車場より周回。道らしきを進んでいくと岩登りの練習場。何組かがトライしている。道らしきを進むも次第に不明となり、沢に出る。沢の向こうにも道がありそうな感じだが不明。やむなく沢沿いの道らしき・獣道たどり最後は、笹藪かき分け稜線尾根。方向を確認。北へ笹かき分け進む。骨ヶ平より本道の整備された登山道となり、上り下りを繰り返し瓢ヶ岳山頂(13:55)。先客1人。三角点のある平坦な山頂。高賀山等の眺め楽しみ下山。骨ヶ平より本道を下山。途中の分岐で展望台方面に進むと笹が覆う笹路で少し前にパラついた雨でズボンはびしょ濡れ。展望台まで行き展望楽しむが先の道なく戻るしかない。止む無く下に見える小屋を目指して急坂藪下り。下るとすぐ本道に会い、そのまま下るも笹路もあり。出たのは公園の上の林舗道。本来の登山口は駐車したところより上であることを確認し戻る。

・「今淵ヶ岳」16:15～18:00(1:45)滝神社奥の林道・保守路入口・テープより入山し往復。登山口わからず、2度間違え、地元の人に道を教えてもらい遅いスタート。急ぎ足で、植林地の中の保守路進み、鉄塔。小道を潜り抜け尾根を淡々と進み、一気に今淵ヶ岳山頂(17:10)。三角点のある樹林の中の山頂。すぐ下る。日暮れが早くすぐ暗くなりつつも、目を慣らして、鉄塔まで一気に下り、あとは、明かりをつけゆっくり下山。

・11/4(金)岐阜北2山「タンポ山」山頂8:45、雷倉 同10:55 6:45～13:10(6:25)車でのりこし峠まで入り、尾根・林道を往復。ピンクテープと獣道らしき辿りトラバースして進むも道なくなり上へと一気に登り尾根。あとは尾根道を確認しながら尾根のアップダウン。大きな山を獣道より左を巻いて進み広くて平らな(西台山)山頂。一息入れ、いくつかのピークを経て、獣道、小藪を経てタンポ山山頂。一等三角点。朝日・景色を楽しむ。時刻早いので先へ進む。小藪の道を探しながら進むと稜線分岐。左に進むと下る気配で少し進み地図を確認して戻る。北の尾根を進む。植林地の道らしきを探して辿る。仕舞に林道に出て位置を確認して進むと旧林道の4差路。北尾根の左側の旧林道を淡々と進む。途中、林道の気配も乏しい藪・樹木地も経てただ只管進む。あの一番奥が目指す山と進んでいく。山の麓にテープあり、道らしきをたどる(10:35)。道が狭まり、急坂となり、笹等藪をかき分け進むとなだらかになり平坦な広い小藪(小径木・笹)で念願の雷倉山頂。二等三角点。晴天で山々の眺め良い小春日和。一息入れ、来た道をゆっくり戻る。小藪の小道をかき分け一気に林道(11:25)。紅葉・山々の眺めを楽しみながら戻る。途中尾根で道間違いはしたが、タンポ山へは、少しの小藪で戻る。あとは、11/2位からの風邪気味の症状が続く体調で、体の動きが鈍い。それでも尾根沿いに西台山経て進み、最後の道を手前で入り間違いに気づき戻り、来たルートの入りを見つけ、のりこし峠まで無事戻る。風邪の体調の中、よく長距離の往復ができた(チョット無謀)と自己満足(2回2日に分ける気の山歩きが1日で行けて大満足。)

・11/5(土)岐阜北1山「高時山」9:45～13:15(3:30)晴れ 林道三叉路(きそだに3)に駐車し往復。移動距離・時間の間違えと勘違いの方向への走行で時間かかり遅い出発。最初から本道進むと間違えに気づき引き返し再スタート。ルートは右奥の林道へ。橋を渡りすぐ7番観音。あとは、(古道木曾越峠)表示のある林道と観音番号を確認して登る。沢沿い堰堤ガレバ・急坂を経て林道、さらに植林地道を淡々と進み最後の13番観音・木曾越峠。高時山の大きな表示版あり、そちらの道を進み再度林道。さらに表示版へて尾根を進むと1P。左に折れて鞍部を経て尾根の急坂上ると高時山山頂。先客に4人家族おり、挨拶。二等三角点、樹林の中の山頂ながら、御岳山の眺めは抜群で一息入れ来た道に戻る。あとの時間は翌日の下見(14:35～18:35:4:00)。

・11/6(日)岐阜北1山「高樽山」4:15～11:10(6:55)付知峡奥の度合温泉分岐より少し走ったゲート前に

駐車。暗い中ライトつけ出発。淡々と進み、井出ノ小路山方向との分岐を左側へ大滝林道を進む。檜の初代大木？経て淡々と林道歩き。橋・林道分岐のすぐ上のピンクテープより林班境界歩き。昨日降り下った急坂を一気に登り再度林道。上へ進み、大きな尾根でピンクテープ沢山の境界標より入山(昨日はここまで)6:15)。急坂の林境界をテープ等頼りに踏み跡を辿る。上へ進み、大岩近くで笹藪突入。上の尾根に出て、笹原の尾根地帯。笹藪をかき分け歩きやすいところを見つけ進む 1Pでの笹は同じで鞍部経て急坂を進み稜線尾根 2P。稜線を北へ同じ笹原の檜林を藪の薄いところ探し進むと念願の高樽山山頂。三角点あり、檜・笹原藪の中の平坦な山頂で快晴の空。少し北に進んだ真弓峠道らしきと展望楽しむ。帰りは来たルートを確認しつつ戻る。笹の稜線・尾根は逐次確認しながら進み、大岩へ出てあとはピンクテープを目安に植林地の急坂を一気に下り林道(9:25)に出て安堵。一息入れ長い林道歩き。ショートカットは行き過ぎ戻りしたが、一気に下る。あとは林道を只管歩き、一部ショートカットしゲートに戻る。井出ノ小路山はどんなに遠いことか思いやられるが取り合えず、今回はここまで。

11/12,13 石川西5山 晴れ

・11/12(土)「大山」15:30~17:30(2:00)横谷ミズバショウ群入口より往復。遅い出発で、ミズバショウへの遊歩道を沢・植林地等経て進み、稜線尾根。北へ尾根辿り、獣道・境界標目安に小藪進む。1P 経て、下り、踏み跡・獣道らしきを進んでゆく。平坦な藪のピークが大山山頂。樹林帯・藪の中の山頂で、夕日楽しむ。来た尾根道戻り、遊歩道に出て、安堵して下り、薄暮の中戻る。

・11/13(日)「鈴ヶ岳」山頂 7:25「大日山」同 8:25「小大日山」同 9:15 6:00~11:40(5:40)木地小屋登山口より周回。明るくなりかけて出発。整備された道を沢沿いに進む。木橋3つ、渡渉4回(ロープの目印等に助けられ)して熊の平。一息入れ、急坂を登ってゆく。ブナ・終わりがけの紅葉を確認しながら、淡々と上り、ブナ平(稜線尾根)。北へ尾根を進むと間もなく、最高点を経て、鈴ヶ岳山頂。三角点あり、広場の山頂で、雪被る白山、日本海等の展望楽しむ。快晴で静か。尾根を戻り、からくり小屋経て一旦下り、急坂をゆっくり登る。途中、朝駐車場であったトレラン姿の2人に挨拶。ほんの一部雪あり、間もなく大日山山頂。快晴で白山等山々の眺め楽しむ。徳助新道下り、鞍部より登り返して 1P(冷水の頭)。展望良い。さらに稜線進むと小大日山山頂。表示板あり、海・山の展望楽しむ。先に少し進むと三角点あり、一息。大日山の並びに甲山を確認(これが越前大日山と後で知りガックリ、すぐ行けたのに?)。来た整備された尾根道辿り、大日山・急坂下り、幾人もの登山者に会い、からくり小屋。来た道を辿り、熊の平。好天のもと、沢の渡渉楽しみつつ戻る。

・「大倉岳」12:35~14:05(1:30)スキー場より往復。下りてきた2人にルート確認し登山開始。スキー場の端を歩き、途中横切り、左側の急斜面を整備され、草丈もないスキー場の坂を辿り、上部に出る。後は北側へ整備された遊歩道を進む。鞍部より、急坂の階段経て平坦な広場の大倉岳山頂。三角点、東屋あり、白山・海の眺め良い。小春日和の好日を満喫。来たルート辿り、スキー場へはショートカット済み、茨に苦戦しつつ、何とかスキー場へ出て軽快に戻る。登山者6人に会い人気の山。今回はここまで。

11/24,25 休暇取り岐阜へ遠征。パート1

・11/23(水)岐阜北1山「下呂御前山」晴れ 11:50~14:40(2:50)大洞口より往復。遅いスタート。植林地を歩き、林道を2度通り、5合目登山口。後は、合目表示を確認しつつ、高度上げ、展望台・旧御嶽山の遥拝所のある稜線に出る。広い尾根を進み 1P経て登ると下呂御前山山頂。平坦な広場・岩のある山頂。三角点あり、下呂の街、山々の展望楽しむ。冬型の天候で冷たい風が吹いていた。下りは淡々と来たルートの一部ショートカットし戻る。

・11/24(木)岐阜東1山 藪山「井出ノ小路山」雨・雪・曇り 6:00~15:20(9:20)雨のため、雨具着け取り敢

えずの気分で、薄明るい中出発。9時頃には雨も止む予報を信じて、林道歩き。入口ゲートより林道進み分岐を以前は左の大滝林道に入ったが、今回は直進(夕森山北林道)しすぐゲート。舗装の整備された林道を進み、2度目標示の2代目大ヒノキで寄り道。階段を上り、横の旧作業道進むと2代目大ヒノキ。真っ直ぐな樹齢千年のヒノキ。来た道戻り入口へ(30分のロス?)。再び林道進み、林道脇の木曾ヒノキの大木、神社仏閣に使われるヒノキ備林地を遠目で眺め、美林橋通過。林道を進み、一部ショートカットして、砂利の林道へ。橋の2つ目(カラ沢橋)が今回の山入り地点。杖等デポし堰堤を探す(9:00)。少し上に進むと目指す堰堤あり、上部から草藪かき分け入ると旧階段あり、堰堤の右を上がったが続きそうもなくすぐ沢に戻り、雨が止んだ中、沢歩き開始。林道上部から少しの残雪あり、沢は水なく、大岩等慎重に足場を確認し高度を上げてゆく。枝沢を確認しながら、緩やかな本筋と思しき沢を着実に進む。残雪あり、ゴム手袋は濡れても先へ先と進む。笹の残雪かき分けで、手がかじかむ。上部で水の流れが出たところで分岐。水の流れる右側を選択し沢を詰める。笹雪かき分け進み、沢がなくなり、右の笹原にとりつく。笹をかき分けつつ、足が笹腐れに時折膝以上に嵌りながら、樹林の木・根等頼り、少しづつ高度上げて、稜線尾根。笹の薄い踏み後らしきを右へ辿り、井出ノ小路山の二等三角点。ゴム手取るが、手がかじかみ、手帳への記入する手は震えっぱなし。一息入れ、目指す山頂(最高点)へ。来た尾根稜線を戻り、鞍部に下る。鞍部では、雪が降り始めた(寒いはずだ)。笹原を踏み後らしきとテープ等頼りに笹をかき分け進むが、思ったほど進まず、あせりつつも淡々と笹をかき分け登る。ピークは、右寄りを巻いて念願の井出ノ小路山山頂(11:50)。平坦なヒノキ等樹林の中の山頂で標示板あり。雲で視界なし。メモ書きも同じく震え、寒さが増してきた。すぐ下山へ。テープ等ある別方向へ下ったが、わからず再び山頂に戻り、来た道下る。笹の雪が払われ少しは来たルートわかり、一気に鞍部へ下る。鞍部で夥しい目印確認し、来た西の沢方向へ。沢の始めに出て、笹雪で見えない沢をゆっくり下って行き、水流のあるなしで分けた分岐に戻り小安堵。後は、来た時より降り積もった雪・岩の滑りに注意しながら淡々と下る。堰堤見えゆとり出て、林道カラ沢橋に戻り(13:30)大安堵。林道はショートカットして来た道に戻る。これで富山県に続き長野県も踏破。

・11/25(金)岐阜西3山。天候曇り・小雨・晴れで目まぐるしく変わる。

「新穂山」ヤブ山 曇り 7:10~10:30(3:20)殿又林道の舗道終点より往復。午前中天気よいはずで出発。旧林道歩き。萱等伸びる使われなくなった林道歩き。ピンクのテープの目印の尾根より山入り(8:30)。植林地の旧作業道らしき踏み後、目印等頼りに高度を上げ笹ヤブの稜線。方向を確認し、尾根中央の踏み後らしきを辿り、笹をかき分け進む。1Pより左側の笹のない獣道ルートを通り、登ってゆくと新穂山山頂。三角点ある平坦な樹林・笹の山頂。曇りで視界なし。オレンジの山頂標示板が目につく。下りは、西側の笹のない獣道らしきを通り、一気に支尾根分岐。後は尾根を淡々と下り林道(9:50)。来た林道の景色確認しながら戻る。戻ると雨が降り出した。

・「貝月山」小雨 11:40~13:10(1:30)旧ふれあいの森林ゲート下の駐車場より往復。ゲートより林舗道坂登り、標示もない階段より山入り。整備された階段を淡々と上り進むと貝月山山頂。二等三角点。展望台のある広場の平坦な山頂。雲で視界なし。雪が舞い始めたのですぐ来た道を下山。林舗道は少しショートカットし戻る。

・「鍋倉山」曇りのち晴れ 13:55~16:15(2:20)長者平口(赤テープ多し)より東海自然歩道歩き。少し登ると日坂ルートと合流。広い稜線を登り下りしながら進み、つづら折れの道を長者平等眺めながら整備された階段道等を淡々と登り、鍋倉山山頂。先の階段まで進み戻ると天候が急回復。陽光浴びながら一休み。三角点ある尾根の山頂。久しぶりの陽光で気分も高揚。下りは、陽光・山々の眺め等楽しみながら戻る。

11/23~26 岐阜遠征 パート2

・11/26(土)岐阜西1山藪山「若丸山」伝説のハイカー編 7:10~15:40(8:30)曇りのち晴れ 塚・白椿隧

道口駐車場より往復。冠山の地下を通る道路工事現場を横目に曇り空の下、旧家屋の間を通り進むも、茨のため、植林地へ。ピンクテープあり、辿るとすぐ上の尾根に出た。尾根を辿り進むと、テープ・布が色々ついた尾根分岐。赤布を目安に尾根進む。2Pで緩やかな尾根と急激に下る分岐。曇りで視界なく、方向がつかめない。夥しい目印のある方向へ。痩せ尾根の下りが続き不安になるが、鞍部に出て道が続き安堵。笹の尾根を西側の獣道頼りに進む。途中ブナ林の見事さに唾然としながら、獣道らしき進む。要所にある赤布に助けられ進み 3P(梨平?)では天候が晴れ、目指す山が間近に見え意気込む。急坂の笹尾根は、西側の獣道・テープ等を頼りに進むが、灌木多くなり、道が不明に。取り敢えず踏み後らしきを辿り、灌木をかき分け進む。大岩に出て、何とか直登し上部に出ると、遠くから緑の森に見えたシャクナゲ・ヒノキ等の張り出す尾根。取り敢えず、腕力でかき分け、かき分け真っ直ぐに進む。次は灌木ヤブ。これも歩きやすいところ、踏み後らしきを辿る。かき分け進むが、ピークはまだ先で目先をかき分け進むとピーク。だが、先に1山あり、溶けかけた残雪にズボンをビショビショに濡らしながら、藪道かき分け進み、念願の若丸山山頂(11:30)。ヤブがこれほどとは!。二等三角点あり、360度の大展望・山々を晴天のもと、濡れたズボンを絞り出してから、楽しむ。下りも来た尾根藪進み、次のピークまで順調。その後がどこから上がったか不明となり、一度躊躇したが、真ん中尾根進むと急激な下り。これは違うなと思いつつ慎重に下る。これ以上は、垂直近く厳しいと思って北側を見ると来たような稜線ルートを遥か北側に確認。尾根を先まで来すぎてしまった様子。取り敢えず降りた急坂を慎重に3点確保で登り返し、滝の高巻きと同じ要領でかつ枝・足場確認しつつのトラバース開始。3尾根ぐらい繰り返し、漸く来たような尾根が見え斜めに下り本道・次に目印の赤布確認し安堵。来たルートを手々・景観を確認しながら戻る。2Pでは、陽光の下、冠山の見事な岩峰・若丸山が見えて大満足。再び立派なブナ平を経て、赤布頼りにルンルン気分を下る。最後の稜線は、目印布を通り過ぎ真っ直ぐ進んでしまい、川の手前の道の端に小ヤブをかき分け下り、ダニを着けて駐車場に無事戻る。すぐダニを払った。かなり安易に登り、下りに大苦戦した大反省の山だが、天候に恵まれ、半袖で歩いて、プチ満足の山行となった。翌日は、天候雨のため、今回はここまで。

12/2、3 北陸遠征。石川西6山、福井東1山

・12/3(土)晴れ「蓮如山」山頂 9:15「鷹落山」同 10:00「動山(ユルギ)」同 11:20 8:10~13:25(5:15)西俣キャンプ場駐車場より周回。キャンプ場奥の道より山入。植林地を経て、整備された急坂辿り稜線。先に進むも表示なく引き返し、北へ下ると史跡公園(9:00)。再び戻り上り返して進むと蓮如山山頂。稜線の1Pで樹間より街・海が見える。尾根を南へ進み、坂を登ると鷹落の案内。西へ折れて行くと鷹落山山頂。二等三角点、方位盤ある平坦な広場の山頂。快晴で、雪被る白山、日本海・街並み、山々の展望を楽しむ。尾根稜線に戻り、約4Kmの尾根歩き。整備された尾根道で歩きやすく感謝。目指す山の手前で鞍部に降り、西からの登山道と合流し急坂登ると動山山頂。地元の5人のパーティーに挨拶して、山話し、近くの山の情報を教えてもらう。三角点のある、平坦な大広場の山頂で、白山等山々の眺め楽しむ。来た尾根ルートに戻る。途中2人の登山者に合う。鷹落分岐より下りに入り、分岐より自然教室の案内方面へ下る。林道に出会い、舗道に出て、自然教室を確認して元の駐車場に戻る。

・「蔵掛山」14:20~15:45(1:25)教えてもらった滝ヶ原地区駐車場より往復。林道を進み、中ノ谷ルート(山頂まで1km)へ。整備された細い道を進み、急坂の岩尾根を一気に登り、鞍掛山山頂。三角点あり、白山、山々・海・街の展望楽しむ。先にピークあり、鞍部に下り、避難小屋。少し登り返すと(後山)山頂。高さは鞍掛と同程度。小屋へ戻り、トラバース道を経て西ノ谷ルートを一気に下山。こちらが一般ルートらしく歩き易い。淡々と下り、林道の合流点を経て戻る。来た時車が多く、地元では、かなり人気の山。

・12/4(日)曇りのち晴れ「水無山」6:30~8:30(2:00)道の駅やまなかより周回。未明から南側の登り口を探したが見つからず、1時間のロス。再び道の駅に戻り、北側のルートへ。国道を進み、白山神社内の神社

手前より石仏の小道を辿る。尾根に出て、整備された道を進み、広い作業道と合流し、旧展望台を経て進むと電波塔の並ぶ水無山山頂(7:20)。広場の山頂で、南側の展望良い。尾根を南へと進み最高点経て、天狗岩。ここで戻れば良かったものを先へと道が怪しい急坂を慎重に下る。歩き易いところを探し下り、植林地。道らしきは不明で、淡々と小藪を下って行き、林道に出る。安堵したが、林道を東へ進んでいると思うが、長く感じる。漸く、未明に歩いた国道に出て、南下し道の駅に戻る。

・「刈安山」9:00~9:10 案内表示より林舗道を車で進むと白山神社のある刈安山山頂。駐車しすぐ刈安山山頂。二等三角点。朝日、風あり。展望台に登り返る。

・「火燈山」10:10~12:05(1:55)山竹田登山口より往復。砂利の荒れた道を行けるところまで車で進み、白山神社跡手前に駐車し往復。林道進むと間もなく登山口表示で山入り。植林地経て、テープ等目安に登ってゆく。岩道が多くなり、開けた明るい尾根に出ると、茨・薄等狭い道歩き。藪化しつつある雰囲気。稜線に出て進むと間もなく火燈山山頂。晴れ、風あり、山々・街・海の眺めを楽しみ一息入れる。古道・峠ルートが道が広く整備されている様子。下りは、来た道を一気に戻る。小春日和に恵まれた2日間の山歩きを楽しむ。今回はここまで。これで遂に4000山のうち2400山を通過。先は長そうだが・・・。

新日本山岳誌以外編

・12/10(土)晴れ岩手南(2山)・JAC 岩手支部例会参加(忘年会)。

「経塚山」山頂 10:10、「音羽山」同 11:45 9:40~13:45(4:05)月山神社奥社駐車場より往復。久しぶりにJAC 例会参加。整備された階段等の道を進み、胎内石。さらに登り、本道と合流し展望台。その先へ進み、経塚山山頂。岩の山頂で三角点あり、北上川等の眺め良い。風強い。合流点経て本道を下り、県道出合い。県道を進み、途中より左に山道進むと音羽山山頂。冬風強い。記念撮影、北上川・山々の展望楽しみ、少し下り風を避け昼食。県道に戻り、少し進み、電波塔の立つ山へ。急坂の車道進む平坦な束稲山山頂(12:452度目)。電波塔林立する平坦な山頂で一等三角点確認し、来た道を冬の好天を感じながら下山。冬風だが、雪は少力で、恰好の冬山歩き。駐車場に戻り、奥社拝み、JAC 全体委員会・忘年会参加。翌朝は新雪10cm。

12/24,25 滋賀北6山 晴れ

・12/24(土)4山「天吉寺山」8:00~11:15(3:15)大吉寺駐車場より往復。参道・沢を経て植林地進むと旧寺跡。新雪が出て来て、坂を上ると尾根。新雪が深くなる。尾根伝いに枝等についた新雪を払いながら進むも次第に軍手・ズボンが濡れてくる。かなり濡れたところに天吉寺山山頂。二等三角点。新雪20cm、平坦な山頂で、青空、朝日、山々の眺め楽しみ来た道戻る。

・「七尾山」12:20~14:15(1:55)配水ゲート駐車し周回。広い舗道進む、南池口登山口ゲートより、林道進む。下山の地元の5人パーティーに挨拶。迷い易いため、目印付けての歩きの様子。急坂尾根を下山のため、確認しつつ進む。虎ロープ経て北池ルートとの合流点。そこから少力で七尾山山頂。三角点あり、琵琶湖、伊吹の眺め良い。3登山ルートあり。来た道戻り、分岐より北池コースへ。広い尾根の真ん中進む、すぐ作業道。下ったが、途中でなくなり、止む無く、谷方向へ歩けるところ進むと道らしきに出会い、急坂下ると舗装の作業道。淡々と下り、配水タンク経て、さらに下っていくとゲートの駐車場に戻れた。

・「虎御前山」15:15~16:00(0:45)公園駐車場の中野口より遊歩道・舗道経て電波塔脇の小山の虎御前山山頂。三角点あり、琵琶湖・集落・山々の眺めあり。すぐ下山。

・「山本山」16:15~17:05(0:40)寺・学校の駐車場口より往復。日暮れを考慮し急ぎ足で、急坂を淡々と上り、山本山山頂。二等三角点、城跡史跡巡り、琵琶湖・伊吹の眺め楽しみ、急ぎ足で夕暮れ前に下山。

・12/25(日)晴れ2山「賤ヶ岳」7:15~8:30(1:15)余呉湖畔旧国民宿舎口より遊歩道を往復。なだらかな遊

歩道を進み尾根。整備された尾根を進むと史跡の砦跡等の賤ヶ岳山頂。三角点あり、琵琶湖・余呉湖・山々の展望を朝日の中、大いに楽しんで下山。

「七ヶ頭ヶ岳」9:15～11:05(1:50) 観音参道口より往復。林道進み急坂を落ち葉を踏み締め登る。好天で心地よい。尾根に出て、半袖になり、進むと残雪が出て、踏み締め進むとお寺と社あり、拝む。奥に進むと七ヶ頭ヶ岳山頂。三角点あり、積雪 5cm。平坦な山頂で樹間より展望あり。下りは、残雪・落ち葉を踏み締め、陽光、琵琶湖・余呉湖の遠望、雪の山々の展望楽しみ戻る。連休初日(天候不順のため)は移動で、2日、3日目は好天で歩きを楽しむ。大遠征(片道 9～10時間)ではあったが、満足。

12/31(土)滋賀北4山「呉枯ノ峰」7:00 から 8:55(1:55) 木之本配水タンク口より往復。落ち葉の道を進み、尾根経てすぐ呉枯ノ峰山頂。一等三角点、曇りの中の朝日、樹林の中の平坦な山頂。視界今一つ、積雪1cm。落ち葉踏みつつ戻る。

「己高山」9:25～13:20(3:55) 己高庵駐車場より往復。林道経て、仏供谷登山口より尾根コースへ。合目表示に助けられ落ち葉踏みしめ進む。4合目位より残雪。鉄塔・トラバース道経て、鶏足寺跡。急斜面を横切り、尾根より急坂進むと己高山山頂。三角点、石祀りある平坦な山頂。伊吹方面の眺めあり、積雪8cm。積雪・落ち葉歩き楽しみ下山。

「行市山」13:25～15:25(2:00) 時間ないため、寺・ゲート口より入り、直登。旧作業道・獣道辿り、尾根経て林道(カーブミラー)に出る。林道を下り、途中より急坂獣道経て本道出合い。少し進むと別所山砦跡。距離表示を目安に進み、砦跡経て、行市山山頂。晴れで南東側の伊吹山・余呉の集落の眺めあり。植林の平坦な山頂。積雪5cmで来た道をショートカットし戻る。

「小谷山」16:00～17:25(1:25) 日暮れまで時間なく、真ん中の清水谷コースを往復。ゲートより林道歩きし入山。旧屋敷跡等の史跡を左右に見ながら、階段を急ぎ進む。稜線で尾根コースに合流し、階段等の道を進むと小谷山山頂(大嶽城跡)。三角点あり、琵琶湖・竹生島等の眺め良い。年末の鐘の音、夕日を日没まで眺めて風情を楽しみ、来た道を急ぎ戻る。稜線尾根平坦地で熊2頭に出会う。こちら、あちらもびっくり。こちらは、大声を数度あげて2頭の熊が、左右の藪に去るのを待って、急ぎ通り過ぎる。急ぎ足で下ると入口にクマ出沒の大看板あり。薄暮に資料館の駐車場に戻る。浅井3姉妹ゆかりの地と幟を見て知る。○平成28年は、187山(:44山・新日本山岳誌以外)計231山を登る。山入りは、101日。お陰様で踏破した山の累計は、4000名山のうち2418山となりました。